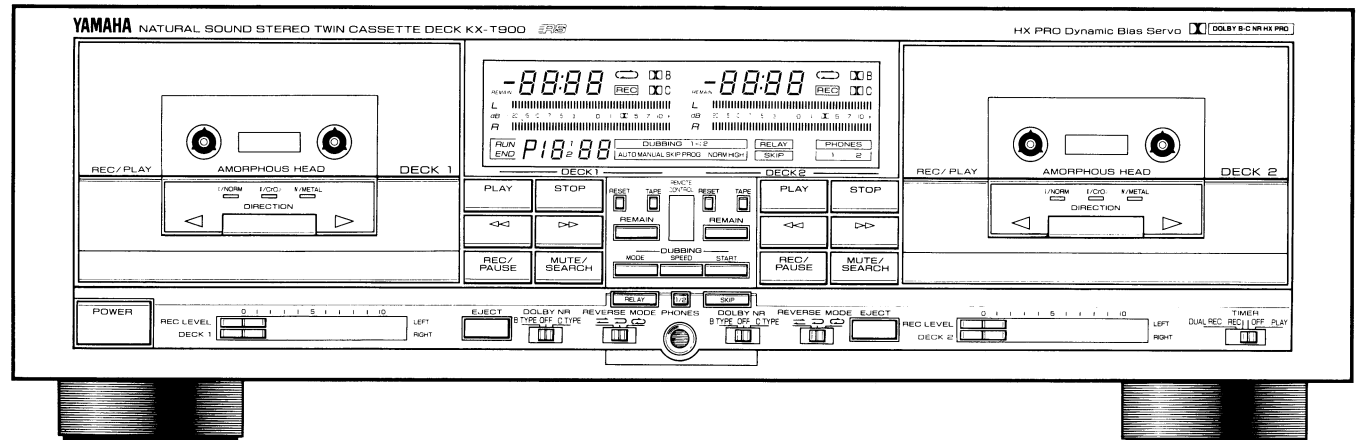


KX-T900

NATURAL SOUND STEREO TWIN CASSETTE DECK

取扱説明書



YAMAHA

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオツインカセットデッキKX-T900をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

KX-T900の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くお使いいただくために、この取扱説明書をご使用前に、ぜひお読みくださいますよう、お願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

目次

特長	1
豊かなオーディオライフのために	2
接続のしかた	3
各部の名称とはたらき	5
リモコンユニットをご使用になるまえに	9
再生・録音の前に	11
再生のしかた	13
選曲再生のしかた	17
録音のしかた	23
ダビングのしかた	27
ドルビーNR、ドルビーHXプロについて	32
タイマー再生／録音のしかた	33
メンテナンス	34
著作権について	34
カセットテープについて	35
故障かなと思ったら	36
参考仕様	37
ヤマハホットラインサービスネットワーク	38

特長

●完全独立ツイン録音・再生デッキ

本機はデッキ1、デッキ2ともに高精度2モーターカセットメカニズムを搭載した完全独立ツイン録音・再生デッキです。録音、再生ヘッドは12層アモルファスヘッド、消去ヘッドにはダブルギャップフェライトヘッドを採用しました。また、本機はマイコン制御のフォトセンサーによるクイックリバース機構を装備したオートリバースデッキです。

●長時間再生、録音を可能にしたリレー機能

デッキ1、デッキ2をリレー再生（オートリバースリピート再生）にしますと、8回まで繰り返して再生を続けます。デッキ1、デッキ2ともにC90テープを使用すれば24時間のロングプレイが可能です。また、リレー録音にしますと3時間の連続録音が可能ですので、クラシック音楽など、長時間にわたる録音ソースにも余裕をもって対応することができます。

●2系統の入・出力端子を装備

デッキ1、デッキ2とも同規格の録音・再生デッキですので、同時に2つのソースを再生・録音することができます。また、同一ソースを同時に2本のカセットテープに録音することも可能です。

●HXプロダイナミックバイアスサーボシステム

内蔵のHXプロは、入力信号の周波数成分とレベルに応じたバイアス量を最適にコントロールしますので、高域のダイナミックレンジ、周波数特性を改善した録音ができます。

●ハイバイアスオシレーター内蔵

本機の内蔵するハイバイアスオシレーターは、バイアス発振周波数を、従来のデッキの2倍の210kHzに設定。倍速ダビング時の変調歪を軽減させました。

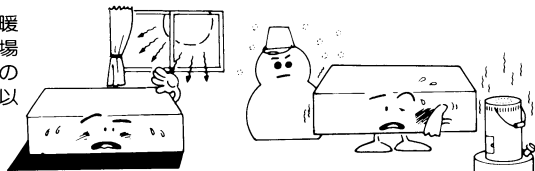
●豊富なダビング機能

ダビング時間を半分にする倍速ダビングを始め、オートダビング、プログラムダビング、スキップダビング、マニュアルダビングなど、ダビング方法を必要に応じて選択することができます。またノーマルスピードダビング時にノイズリダクションの方式を変更できるクロスドルビーNR機能も搭載しました。

豊かなオーディオライフのために

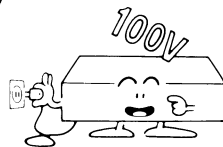
高温・低温はさけて！

窓際や直射日光の当たる場所暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度30℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度5℃以下)は、さけてください。



国内のみ使用可

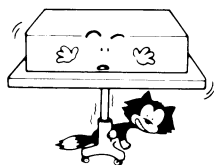
家庭用電源コンセント
AC100V



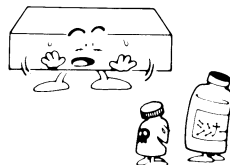
ほこり・水気をさけて！



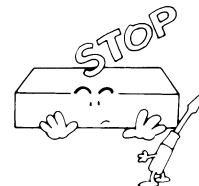
不安定な場所をさけて！



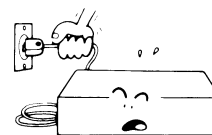
薬物厳禁



開けないで！



引っばらないで！



ヘッドの清掃を



34ページの「メンテナンス」をご覧ください。

こわれた？



36ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



取扱説明書はかならず保管してください。



ファイルなど

エンドステープは使わないで！



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです

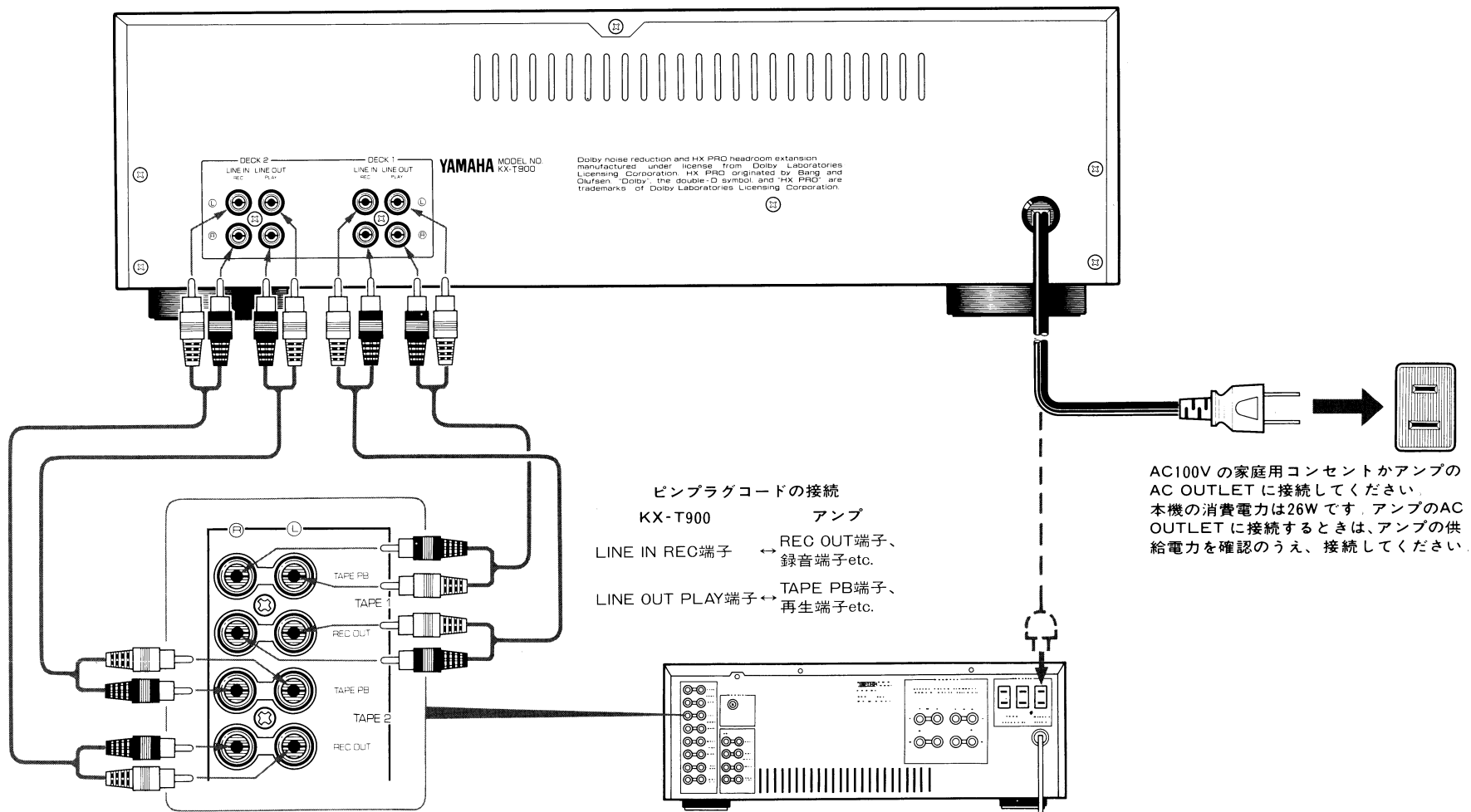
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

接続のしかた

●接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認し、付属のピンプラグコードで確実に接続してください。

●接続するアンプによっては、端子名などが異なります。接続するアンプの取扱説明書もご参照ください。



■LINE IN、LINE OUT端子について

本機のLINE IN REC、LINE OUT PLAY端子はDECK 1、DECK 2それぞれに独立して装備されています。

●接続するアンプのテープ端子が2系統ある場合

本機の特長であるリレー再生、リレー録音をするために、DECK 1、DECK 2のLINE IN REC、LINE OUT PLAY端子はアンプのREC OUT/TAPE PB端子に2系統とも接続してください。

DECK 1、DECK 2各々単独で再生・録音することができます。

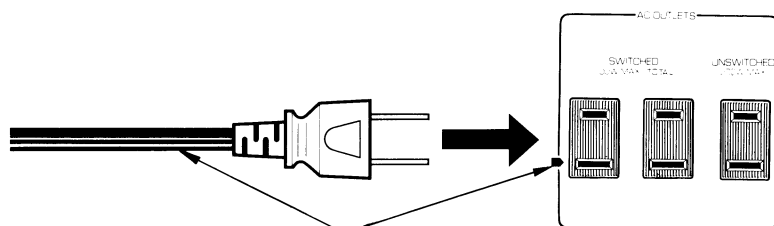
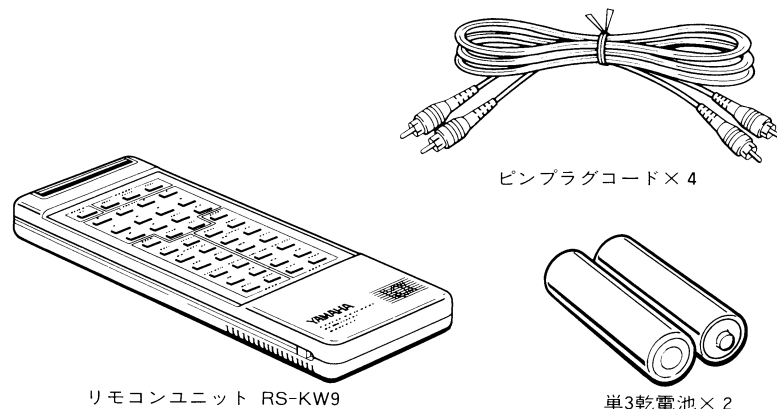
また、アンプにREC OUTセレクターが2系統ありますと、同時に2種類のソースを録音することができます。

●接続するアンプのテープ端子が1系統の場合

DECK 1、DECK 2いずれかのLINE IN REC/LINE OUT PLAY端子をアンプのREC OUT/TAPE PB端子と接続してください。本機のRELAYスイッチをONにしますとリレー再生をすることができます。

*接続するアンプのテープ端子が1系統の場合は、アンプに接続した側のデッキのみ録音をすることができますが、リレー録音や同時録音はできません。

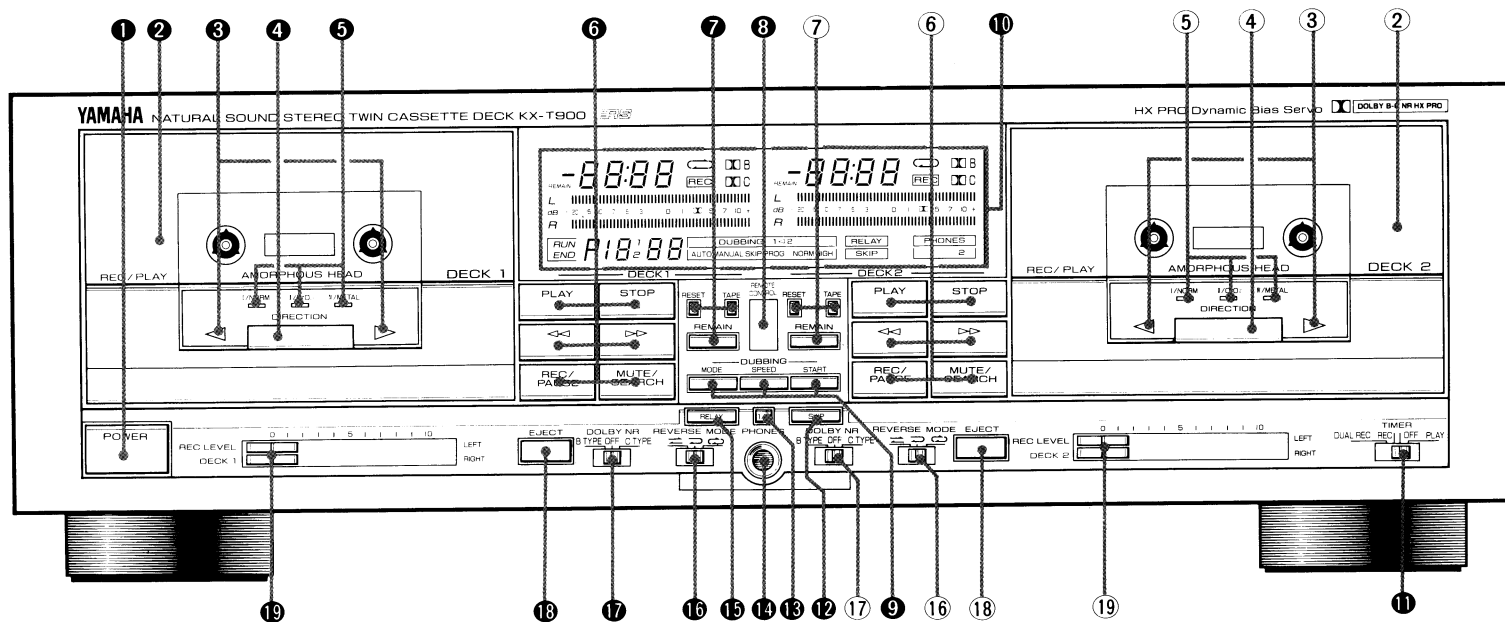
付属品を確認してください。



電源コードの極性表示

本機の電源コードには、極性表示(電源トランスの巻き始め側を、コードに“——”マークで表示)されています。これは、各機器の電源の極性を合わせるためです。アンプ等のAC OUTLETに極性表示があれば電源コードの極性の向きを合わせて接続してください。

各部の名称とはたらき



DECK 1, DECK 2の表示で示すキーやスイッチはデッキ1、デッキ2各々に装備され独立して働きます。

① POWERスイッチ

このスイッチを押しますと電源がONとなり、もう一度押しますと電源がOFFになります。

② カセットホルダー

カセットテープをセットするところです。

DECK 1, DECK 2

③ DIRECTIONインジケーター

テープの走行方向を表示するインジケーターです。左から右（フォワード方向）へ走行するときは「▷」が点灯し、右から左（リバース方向）へ走行するときは「◁」が点灯します。

DECK 1, DECK 2

④ DIRECTIONキー

このキーを押すごとにテープの走行方向（フォワードあるいはリバース）が切り換わります。

DECK 1, DECK 2

⑤ テープインジケーター

カセットホルダーにセットしたテープの種類を表示するインジケーターです。（カセットテープについて→ページ35）

DECK 1, DECK 2

⑥⑥メイン操作キー

プレイ
PLAY

テープ走行をスタートさせるキーです。

◀◀

テープを“◀◀”方向に早送りさせるキーです。

MUTE/SEARCHキーと同時に押しますと、再生中の曲(ディレクションが“▷”のとき)、または次の曲(ディレクションが“◁”のとき)の頭出しができます。(シングル選曲のしかた→ページ17)

また、フォワード方向(ディレクションが“▷”のとき)で録音中に、このキーを押しますとテープは録音を開始した位置まで自動的に巻き戻され停止します。(レックリターンについて→25ページ)

▶▶

テープを“▶▶”方向に早送りさせるキーです。

MUTE/SEARCHキーと同時に押しますと、再生中の曲(ディレクションが“◁”のとき)、または次の曲(ディレクションが“▷”のとき)の頭出しができます。

また、リバース方向(ディレクションが“◁”のとき)で録音中に、このキーを押しますとテープは録音を開始した位置まで自動的に巻き戻され停止します。

レックポーズ
REC/PAUSE

このキーを押しますと、録音スタンバイ状態になります。録音中に押しますと、録音は一時停止状態(REC/PAUSE)になります。

ストップ
STOP

このキーを押しますとテープ走行が停止します。

録音中に押しますと録音が解除されテープ走行が停止します。録音中に押しますと、4秒間の無録音部分を作ることができます。4秒以上の無録音部分が必要なときは、キーを押し続けます。(オートレックミュートについて→ページ25)

ミュートサーチ
MUTE/SEARCH

また、“◀◀”あるいは“▶▶”キーと同時に押しますと曲の頭出しができます。(シングル選曲のしかた→ページ17)

DECK 1, DECK 2

⑦⑦カウンター操作キー

リメイン
REMAIN

テープキーを使ってテープの長さをインプットしておきますと、このキーを押せば、テープの残量時間をディスプレイ表示させることができます。(再生・録音の前に→ページ11)

リセット
RESET

ディスプレイのリニアカウンターをリセット(0.00)するキーです。

テープ
TAPE

再生や録音を開始するときにリセットをしておきますと、テープ走行時間の目安となります。

使用するテープの長さ(時間)を確認およびインプットするキーです。

キーを押すごとに、ディスプレイは、

“C60→C90→C46→C46L”の順に表示します。

⑧リモコン受光窓

付属のリモコンユニットRS-KW9からのコントロール信号を受光するところです。

⑨ダビング操作キー

DECK 2にセットしたオリジナルテープをDECK 1にセットした録音用テープへダビングするときに使います。(ダビングのしかた→ページ27)

モード：ダビングモードを選択します。キーを押すごとにAUTO→MANUAL
→SKIP→PROG→AUTO……の順に変わります。

オート
AUTO……オリジナルテープと同じテープを作るとき

マニュアル
MANUAL……オリジナルテープを編集しながらダビングするとき

スキップ
SKIP……オリジナルテープの曲間をつめてダビングするとき

プログラム
PROG……オリジナルテープをプログラム選曲してダビングするとき

スピード
SPEED：ダビングするスピードを選択します。

ノーマル
NORM……定速でダビングをします。クロスドルビーNRダビングができます。(クロスドルビーNR機能について→27ページ)

ハイ
HIGH……高速でダビングします。

スタート
START：このキーを押しますとダビングがスタートします。

⑩マルチディスプレイ

ディスプレイ

リニアカウンター テープの走行時間を表示します。
 テープ TAPEキーを押しますと、テープの種類(長さ)を表示します。
 リメイニングタイム REMAINキーを押しますと、リメイニングタイム(テープの残量時間)を約5秒間表示します。

リバースモードインジケータ

REVERSE MODEキー⑩で選択された
 リバースモードを表示します。

REMAINインジケータ

REMAINキーを押しますと、点滅後約5秒間点灯
 します。このときディスプレイはリメイニングタ
 イム(テープ残量時間)を表示します。

ピークレベルメータ

再生および録音中のピークレベルを
 -20dB~+10dBの範囲で表示します。

プログラムディスプレイ

ダイレクト選曲、プログラム再生、プログラムダビングのときに点灯表示します。

18 88 曲番を表示します。
 ラン プログラム再生中点灯します。
 エンド プログラム再生終了時に点灯します。

1 ダイレクト選曲およびプログラム再生を実行している側のデッキを表示します。
 2
 P プログラムがセットされているときに点灯します。

RECインジケータ

録音中および録音一時停止(録音ポーズ)状態のときに点灯します。オートレックミュート
 中は点滅します。

ノイズリダクションインジケータ

DOLBY NRスイッチ⑦で選択されたノイズリダクションを表示します。

DECK 1のディスプレイと
 同じ働きをします。

RELAYインジケータ

リレー再生・リレー録音をするときに、RELAY
 スwitch⑮を押しますと、点灯します。

PHONESインジケータ

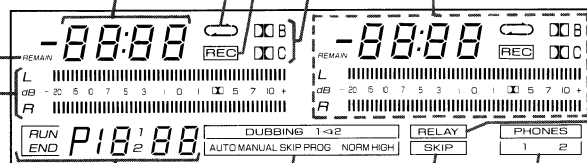
PHONESキーで選択した側が点灯表示されます。

SKIPインジケータ

スキップ再生をするときに、SKIPスイッチ⑫を押しますと点灯します。

ダビングモードインジケータ

1 < 2 ダビング時に点滅します。
 オート オートダビング時に点灯します。
 マニュアル マニュアルダビング時に点灯します。
 MANUAL
 スキップ スキップダビング時に点灯します。
 SKIP
 プログラム プログラムダビング時に点灯します。
 PROG
 ノーマル 通常スピードでのダビング時に点灯します。
 NORM
 ハイ 倍速ダビング時に点灯します。
 HIGH



⑪ タイマー TIMERスイッチ

市販のオーディオタイマーを使ってタイマー再生や、タイマー録音をするときはこのスイッチを切り換えます。(タイマー再生・録音のしかた→ページ33)

PLAY: プレイ タイマー再生をするときは、この位置にします。
* DECK 1、DECK 2の両方にテープをセットした場合はDECK 1が優先します。

REC: レック タイマー録音をするときは、この位置にします。
* DECK 1、DECK 2の両方にテープをセットした場合はDECK 1が優先します。

DUAL REC: デュアル レック DECK 1、DECK 2同時にタイマー録音をするときはこの位置にします。

OFF: オフ タイマーを使用しないときは、この位置にしておきます。

⑫ スキップ SKIPスイッチ

このスイッチを押しますと、再生中に無録音部分が15秒以上続いた場合には自動的に次の曲まで早送りします。

⑬ ホーンズ PHONESキー

このキーを押すごとに、ヘッドホンジャックに出力される音楽信号の選択がDECK 1⇄DECK 2の交互に切り変わります。

⑭ ホーンズ PHONESジャック

ステレオヘッドホンを接続するジャックです。プライベートリスニングのときに活用ください。

⑮ リレー RELAYスイッチ

リレー再生・リレー録音をするときは、このスイッチを押します。




REVERSE MODEスイッチ⑯と併用することにより、いろいろなリレー動作をさせることができます。(リバースモードとテープリレーについて→ページ16)

* 本機のLINE IN REC端子が2系統とも接続されていませんと、リレー録音はできません。

⑯⑰ リバース モード REVERSE MODEスイッチ

DECK 1, DECK 2

テープの走行モードを選択するスイッチです。

リバースモード	再生・録音のとき	早送りのとき
マニュアルリバース 	テープの片面だけを再生・録音します。	テープエンドでストップします。
オートリバース 	テープの両面を1回だけ再生・録音します。 (▷から◁方向へ)	フォワード方向へ早送りし、テープエンドでリバース側の再生が自動的にスタート。
オートリバース リピート 	テープの両面を繰り返し再生します。(8回まで) 録音のときは1回往復します。(▷から◁方向へ)	フォワード方向へ早送りし、テープエンドでリバース側の再生が自動的にスタート。 リバース方向へ早送りし、テープエンドでフォワード方向の再生が自動的にスタート。

* リリーススイッチが押されていますと、リバースモードにかかわらず、テープを早送り・早戻しした場合にはテープエンドでストップ状態になります。

⑰⑱ ドルビー ノイズリダクション DOLBY NRスイッチ

DECK 1, DECK 2

再生・録音時にノイズリダクション (NR) を選択するスイッチです。

B TYPE: タイプ ドルビーBタイプNRを使って録音されたテープを再生するとき。および録音をするときは、この位置にします。

OFF: オフ ドルビーNRを使わずに録音されたテープを再生するとき。および録音するとき、この位置にします。

C TYPE: タイプ ドルビーCタイプNRを使って録音されたテープを再生するとき。および録音をするときは、この位置にします。

⑲⑳ イジェクト EJECTボタン

DECK 1, DECK 2

このボタンを押しますと、カセットホルダーが開きます。カセットテープをセットするときや取り出すときに押します。

* テープ走行中は絶対に押さないでください。

⑲㉑ レック レベル REC LEVELコントロール

DECK 1, DECK 2

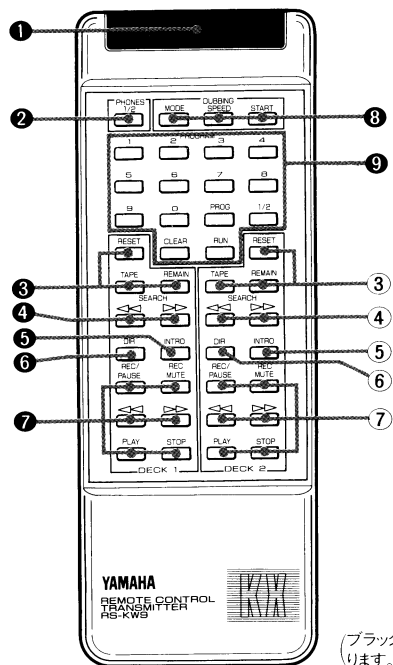
録音するときの入力レベルを調整するツマミです。各デッキのLEFTは左チャンネル、RIGHTは右チャンネルの入力レベルを調整します。

リモコンユニットをご使用になるまえに

■リモコンユニットの名称とはたらき

付属のリモコンユニットRS-KW9をご使用になりますと、基本操作のほとんどに加えダイレクト選曲、プログラム再生、イントロスキャンなどを離れた場所から操作できます。

リモコンユニット RS-KW9



①送信窓

リモコン信号を送信する窓です。

②PHONESキー

本体のPHONESキー⑩と同じ働きをします。

③③カウンター操作キー

リセット
RESET : 本体のRESETキーと同じ働きをします。
テープ
TAPE : 本体のTAPEキーと同じ働きをします。
リメイン
REMAIN : 本体のREMAINキーと同じ働きをします。

DECK 1, DECK 2

④④SEARCHキー

再生時に前後の曲を頭出しするときに使います。
また、10キーで曲番を指定したあとに、このキーを押しますと、ダイレクト選曲をすることができます。(前後99曲まで可能です)(ダイレクト選曲のしかた→ページ19)
▷ : フォワード方向に再生中は先の曲、リバース方向に再生中はその曲を含めて前の曲を選曲し、曲の頭から再生をします。
◁ : フォワード方向に再生中はその曲を含めて前の曲を選曲し、リバース方向に再生中は先の曲の頭から再生をします。

DECK 1, DECK 2

⑤⑤INTROキー

このキーを押しますと、イントロ(曲の頭の部分)を約10秒ずつ順次再生します。

DECK 1, DECK 2

⑥⑥DIRキー

本体のDIRECTIONキー④④と同じ働きをします。

DECK 1, DECK 2

⑦⑦操作キー

レック
REC PAUSE : 本体のメイン操作キー⑥⑥のREC PAUSEキート同じ働きをします。
レック **ミュート**
REC MUTE : 録音中に押しますと、4秒間の無録音部分を作ったあと、録音ポーズ状態になります。4秒以上の無録音部分を作るときには、押し続けます。

DECK 1, DECK 2

◁・▷ : 本体のメイン操作キー⑥⑥の◁・▷キーと同じ働きをします。

プレイ
PLAY : 本体のメイン操作キー⑥⑥のPLAYキーと同じ働きをします。

ストップ
STOP : 本体のメイン操作キー⑥⑥のSTOPキーと同じ働きをします。

* REC PAUSEとPLAY、◁キーまたは▷キーとREC MUTEキーの同時押しは受け付けられません。

⑧ DUBBINGキー

- MODE** : 本体のダビング操作キー⑧のMODEキーと同じ働きをします。
- SPEED** : 本体のダビング操作キー⑧のSPEEDキーと同じ働きをします。
- START** : 本体のダビング操作キー⑧のSTARTキーと同じ働きをします。

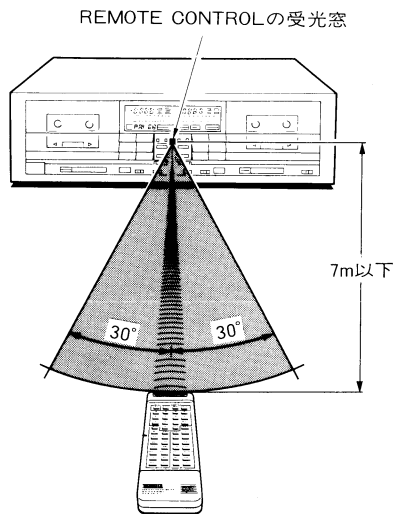
⑨ PROGRAMキー

- 10キー** : 選曲またはプログラムをするときに、曲番を指定するキーです。
- PROGキー** : 聞きたい曲を聞きたい順番で再生させるときに、そのセットや確認・訂正を行うキーです。
- 1/2キー** : 選曲またはプログラム再生をさせるデッキを選択するキーです。
- CLEARキー** : プログラムをクリアするキーです。
- RUNキー** : セットしたプログラムを実行(再生)させるキーです。
- (プログラム再生のしかた→ページ20をご参照ください。)

■ リモコンユニットのご使用上の注意

信号は直進性の強い赤外線を使っていますので、本体の受光窓にリモコンの送信窓を正しく向けてからキーを押してください。

リモコンによる操作可能範囲



付属のリモコンは…

本機専用です。近くに他の機器が設置されていると、誤動作をおこすことがあります。リモコン動作によって誤動作する機器があるときは、その機器のリモコン受光部をふさぐか、設置場所を変えてください。

ていねいに扱ってください。

お茶や水をこぼしたり、強くたたいたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高い所にも置かないようご注意ください。

リモコン受光窓に、直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。

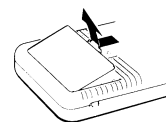
強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、働きにくくなります。

電池の交換時期は？

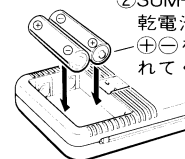
リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

● 電池の交換のしかた

①ふたははずす。



②SUM-3(単3)型
乾電池2個を
⊕⊖を正しく入
れてください。



③電池をセットしたら
カチット音がするまで
しめる。



- プラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 弱ってきた電池は、早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 電池には充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 電池の⊕と⊖を金属片などで直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れてたりしないでください。万一液もれが起こったときは、電池ケースについた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

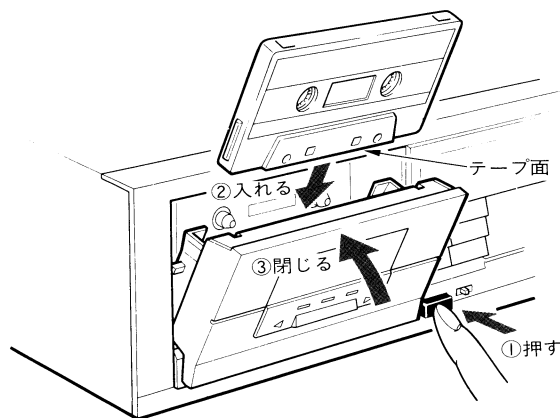
再生・録音の前に

■リモコンで操作する場合は対応するキーをお使いください。

■カセットテープのセットのしかた

- ①EJECTボタンを押し、カセットホルダーを開けます。
- ②テープの露出している面を下にしてホルダー内側の溝にそって入れます。
- ③カセットホルダー上部中央をロック音がするまで押します。

- * 本機を使用しないときは、ゴミやホコリから精密なメカニズムを守るために、カセットホルダーは必ず閉めておいてください。
- * テープ走行中は絶対にEJECTボタンを押ししないでください。
- * テープ走行中に、コンセントから電源コードを抜いたり、POWERスイッチをOFFにしたり、タイマーを使って電源がOFFになった場合、テープが取り出せなくなることがあります。そのようなときは、再度電源を入れてからEJECTボタンを押してください。



■カセットテープの取り出ししかた

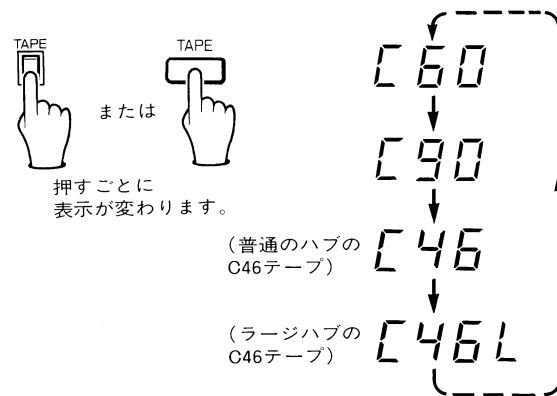
STOPキーを押しストップ状態にしてから、EJECTボタンを押しカセットホルダーを開けてテープを取り出します。

■テープ長のインプットについて

テープの残量を正確に知りたい場合や、リニアカウンターの精度をより上げたい場合には、ご使用になるカセットテープの長さ（時間）を本機にインプットしてください。

●インプットのしかた

- ①本機の電源を入れます。
- ②TAPEキーを押します。設定されていたテープ長が約4秒間表示されます。（電源投入時はC60が表示されます）
TAPEキーを押すごとに、ディスプレイは次のように切り変わりますので、ご使用のテープが表示されましたら、TAPEキーを押すのを止めてください。
これでテープの長さがインプットされました。



- * テープ走行中でもインプットすることができます。
- * テープ長をインプットしているときには、リニアカウンターはテープ長表示に変わりますが、テープ長表示は約4秒後にリニアカウンター表示に戻ります。
- * 一度インプットされたテープ長は、電源が切られるまで保持されます。異なった長さのテープを使用する場合は、インプットをしておいてください。
- * C60、C90、C46、C46L以外のテープをご使用になりますと、表示の誤差が大きくなる場合があります。

■ テープの残量時間表示をさせるには

テープ長をインプットし、再生中や録音中にREMAINキーを押しますと、ディスプレイはテープの残量時間を約5秒間表示します。(残量時間を演算中はREMAINインジケーターが点滅、残量時間表示中は点灯します)

例) テープがフォワード方向に
走行している場合



* ストップ状態では残量時間は表示されません。

* RESETキーを押しますと、表示はリセット (0:00) されリニアカウンター表示に戻ります。

* 残量時間表示後(REMAINインジケーター消灯)は、“-”表示のリニアカウンター表示となります。

リニアカウンター、残量時間表示について

本機のリニアカウンターは分・秒表示をしますので、テープ走行時間の目安としてご利用ください。

● カウンターの精度

本機のリニアカウンターは時計ではありませんので、実際の走行時間と比べると表示される時間には誤差を生じることがあります。その誤差は使用するテープによって異なります。ヤマハのテープを使って片面を走行させた場合、テープ長をインプットしますと実際のテープ走行時間に対するリニアカウンター表示の誤差範囲は±1分以内です。ご使用になるテープ長を正しくインプットしませんでしたと誤差が大きくなりますのでご注意ください。

* 残量時間表示は、REMAINキーが押された時点でのテープの巻き取り回転数をもとに演算、表示をしていますので、時間経過により誤差を生じることがあります。またテープの種類や、テープの巻き取り具合の違いによっても誤差を生じます。

巻き始めでREMAINキーを押しますと残量時間の表示誤差が大きく(C90テープで±3分程度)、巻き終わりでは誤差が小さく(±20秒程度)なります。

残量時間をより正確に知りたい場合は、その都度REMAINキーを押してください。

* ヤマハテープ以外をご使用になりますと、リニアカウンターの誤差範囲が±1分以内に入らないことがあります。

* ラージハブのテープはメーカーによってハブの径が異なりますので、誤差が大きくなる場合があります。

■ オートテープセクターについて

本機内蔵のオートテープセクターは、カセットテープをカセットホルダーにセットするだけで、テープの種類をテープインジケーターが表示します。同時にセットされたテープに最適なバイアス電流とイコライザー特性を自動的に切り換えますので、テープの性能を十分に発揮させることができます。(カセットテープについて→ページ35)

I/NORM ノーマルテープを使用しているときに点灯します。

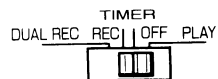
II/CrO₂ クロームテープを使用しているときに点灯します。

III/METAL メタルテープを使用しているときに点灯します。

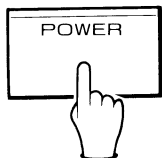
再生のしかた

■リモコンで操作する場合は対応するキーをお使いください。

- 1 TIMERスイッチをOFFの位置にします。



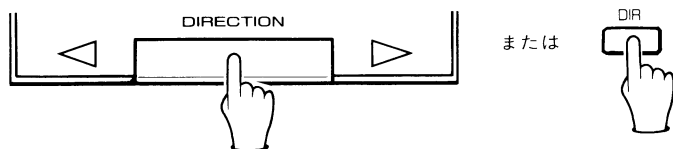
- 2 POWERスイッチを押して電源を入れます。



- 3 DECK 1またはDECK 2あるいは両方のデッキに録音済みのカセットテープをセットします。
(カセットテープのセットのしかた→ページ11)

- 4 以下は再生したい方のデッキを操作します。

テープの走行方向をDIRECTIONキーで選択します。
テープを左から右（フォワード方向）に再生するときは“▷”を、右から左（リバース方向）に再生するときは“◁”を点灯させます。



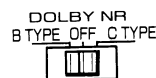
- 5 REVERSE MODEスイッチでリバースモードを選択します。
テープの片面だけを再生するときは“⇄”に、両面を再生するときは“▷”に、両面を繰り返し再生するときは“↻”の位置にします。



- 6 DOLBY NRスイッチを録音時に使用したノイズリダクションの方式に合わせて、切り換えます。

(ドルビーNRについて→ページ32)

- B TYPE : ドルビーBタイプNRを使って録音されたテープを再生するとき。
OFF : ドルビーNRを使わずに録音されたテープを再生するとき。
C TYPE : ドルビーCタイプNRを使って録音されたテープを再生するとき。



- 7 接続しているアンプをテープが再生できるようにセットします。

- *アンプの取扱説明書をご参照ください。
- *アンプにテープスイッチがある場合は、本機の再生する方のデッキ(TAPE 1またはTAPE 2)に合わせます。

- 8 PLAYキーを押しますと再生がスタートします。

- *フォワード方向に再生中に早送りをするときは▷▷キーを、早戻しをするときは◁◁キーを押します。(リバース方向に再生中は▷▷、◁◁キーの動作が反対になります。ご注意ください)
- *再生が終わり、テープエンドになりますとオートストップ機構によりテープ走行は自動的にストップします。



ご注意

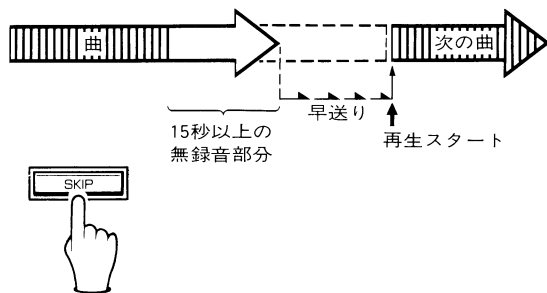
本機はテープの磁性体部分とリーダーテープの違いをフォトセンサーで検出し、リバースしています。そのため次のようなテープをご使用になりますと誤動作することがあります。

- ・テープに異物が付着している。
- ・テープにシワやキズができています。
- ・リーダーテープ部に色がついている。
- ・カセットホルダー内に直射日光やスポットライトなど強い光が差し込んだとき。
- ・センサー部が汚れている。
- ・走行反転用反射板が汚れている。

テープにキズなどがあり、途中で走行方向を反転してしまう場合は、REVERSE MODEスイッチを☞にしてください。リバース機能がOFFになりますので、途中で反転することなく再生・録音をすることができます。

■ブランクスキップについて

再生スタート前あるいは再生中にSKIPスイッチを押しますと、ブランクスキップ再生になり、曲間に15秒以上のブランク（無録音部分）があると、自動的に早送りし、次の曲の再生に移ります。



MEMO

●同時再生ができます

DECK 1、DECK 2の両方にテープをセットし、両方のPLAYキーを押しますと同時再生状態になります。お聴きになりたい方のデッキをアンプのテープスイッチで選択してください。

*ヘッドホンをご使用の場合は、本体またはリモコンのPHONESキーで選択してください。

●再生中にRELAYスイッチを押しますと

本機の2系統のLINE OUT端子の双方に、再生しているデッキの信号が出力されます。この場合にはアンプのテープスイッチの位置に関係なく(TAPE 1またはTAPE 2でも)再生することができます。

*RELAYスイッチを押しますと同時再生はできません。

再生中に他方のデッキのPLAYキーを押しますと、再生中のデッキはストップ状態となり、PLAYキーを押した側のデッキの再生に変わります。

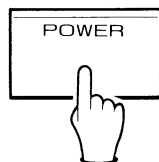
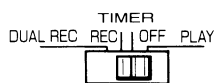
*ヘッドホンの出力もPHONESインジケータの表示に係わりなく、自動的に再生側のデッキに移ります。

*リレー再生をすることができます。(リレー再生のしかた→ページ15)

リレー再生のしかた

DECK1、DECK 2の両方のデッキにテープをセットし、RELAYスイッチを押しますと2本のテープを連続して再生するリレー再生をすることができます。

- 1 TIMERスイッチがOFFの位置にあることを確認し、POWERスイッチを押して電源を入れます。



- 2 録音済みのカセットテープをDECK 1とDECK 2それぞれにセットします。

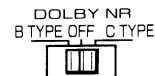
- 3 以下はDECK 1、DECK 2両方のデッキを操作します。

REVERSE MODEスイッチでそれぞれのデッキのリバースモードを選択します。
* リバースモードとテープリレーの詳細については16ページをご参照ください。

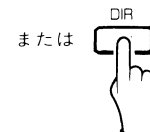


- 4 DOLBY NRスイッチを録音時に使用したノイズリダクションの方式に合わせて、切り換えます。
(ドルビーNRについて→ページ32)

- B TYPE : ドルビーBタイプNRを使って録音されたテープを再生するとき。
OFF : ドルビーNRを使わずに録音されたテープを再生するとき。
C TYPE : ドルビーCタイプNRを使って録音されたテープを再生するとき。



- 5 DIRECTIONキーで、それぞれのテープの走行方向を選択します。



- 6 RELAYスイッチを押します。



- 7 最初に再生させたい方のデッキのPLAYキーを押します。
設定されたリバースモードに従ってリレー再生がスタートします。

リレー再生についてのご注意

リレー再生中に▶▶、◀◀キーを使い、テープエンドまでテープを早送りしますとリレーモードは解除されます。そのようなときは、あらかじめ再生する側のデッキのPLAYキーを押してください。

リバースモードとテープリレーについて

リレー再生(録音時も同様です)では、REVERSE MODEスイッチの位置によりリバース動作およびリレー動作が異なります。下記の表を参考にリバースモードをセットしてください。

例えばDECK 1のREVERSE MODEスイッチを に、DECK 2を にセットしますと、

DECK 1
片面再生

スタート → ストップ

DECK 2
表面再生

スタート → → ストップ

裏面再生

となります。

リバースモード		テープリレー動作		
DECK 1	DECK 2	DECK 1	DECK 2	
⇐ ⇐	⇐ ⇐	▷ または ▷	▷ または ▷	ご注意 1
	▷ または ▷		▷ → ▷ リバース	
U	⇐ ⇐	▷ → ▷ リレー	▷ または ▷	ご注意 2
	▷ または ▷		▷ → ▷ リバース	
▷	⇐ ⇐	▷ → ▷ リレー	▷ または ▷	ご注意 3
	U		▷ → ▷ リバース	
	▷		▷ → ▷ リバース	

ご注意 1

- DECK 1 にセットしたテープの片面の再生(録音)が終了しますと、DECK 2 にセットしたテープの再生(録音)にリレーします。
- * DECK 2 からスタートした場合には、DECK 2 の再生(録音)が終了しますと停止状態になり、DECK 1 にはリレーしません。

ご注意 2

- DECK 1 両面の再生(録音)が終了しますと、DECK 2 にリレーします。
- * DECK 1 のリバース側から再生(録音)をスタートした場合には、フォワード側にはリバースせず、DECK 2 にリレーします。
- * DECK 2 から再生(録音)をスタートした場合には、DECK 2 の再生(録音)が終了しますと停止状態になり、DECK 1 にはリレーしません。

ご注意 3

- DECK 1、DECK 2 の両面の再生を8回繰り返します。
- * DECK 2 から再生をスタートした場合には、DECK 1 を7回、DECK 2 を8回繰り返して再生します。
- * リバース側から再生をスタートさせた場合には、リバースの再生が終了した時点で1回と数えられます。
- * 2本とも90分テープを使用し、DECK 1 のフォワード側から再生をスタートさせますと、24時間のロングプレイが可能です。
- 録音のときはDECK 1、DECK 2 の両面の録音が完了しますと停止します。

選曲再生のしかた

■リモコンで操作する場合は対応するキーをお使いください。

本機は内蔵のマイコンの働きにより、いろいろな選曲再生をお楽しみいただけます。

- **シングル選曲**……………再生中の曲をもう一度聴く、または次の曲を聴く場合。
- **イントロスキャン**……………テープに収録されているイントロ(曲の頭の部分)を、約10秒ずつ順次再生していきますので、再生したい曲をスピーディに探すことができます。
- **ダイレクト選曲**……………聴きたい曲が現在再生中の曲から何曲先、あるいは何曲前かが分かっている場合は、ダイレクトにその曲を選曲、再生することができます。
- **プログラム再生**……………テープに収録されている任意の15曲を選び、任意の順番で再生することができます。

シングル選曲(頭出し選曲)のしかた

■もう一度同じ曲を聴くには

「フォワード方向(▷)の場合」

MUTE/SEARCHキーを押しながら<<キーを押します。現在再生または停止している曲の頭に戻り、自動的に再生がスタートします。

●リモコンで操作するときはSEARCH<<キーを押します。

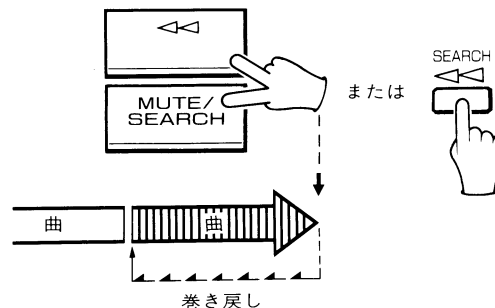
*曲の始めの部分(約10秒以内)で操作しますと1曲前の頭出しになります。

「リバース方向(<)の場合」

MUTE/SEARCHキーを押しながら▷>キーを押します。現在再生または停止している曲の頭に戻り、自動的に再生がスタートします。

●リモコンで操作するときはSEARCH▷>キーを押します。

(例)フォワード方向(▷)の場合



選曲再生についてのご注意

選曲再生は録音されたテープの曲と曲の間にある4秒以上の無録音部分(音の無い部分)を検出して動作しますので、下記のようなテープをご使用になりますと、誤動作することがあります。

- ・無録音部分が4秒以下のテープや雑音の大きいテープ
- ・レベルが非常に低く録音されたテープ(クラシック曲などでピアノシモ部分が長く続いている曲)
- ・静電気を帯びているテープ

テープを作成するときには、本機のレックミュート機能(→ページ25)を使い、曲間を充分に作ってください。

■ 次の曲を聴くには

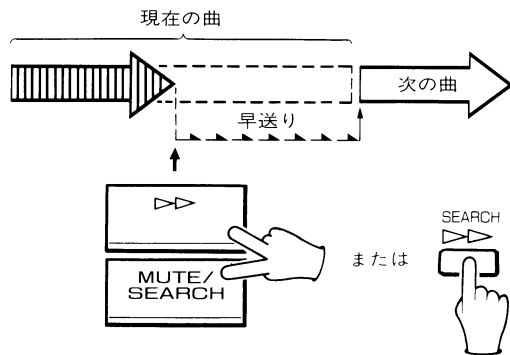
「フォワード方向(▷)の場合」
MUTE/SEARCHキーを押しながら
▷▷キーを押します。次の曲の頭まで早
送りし、再生がスタートします。

●リモコンで操作するときは
SEARCH▷▷キーを押します。

「リバース方向(◁)の場合」
MUTE/SEARCHキーを押しながら
◁◁キーを押します。次の曲の頭まで早
送りし、再生がスタートします。

●リモコンで操作するときは
SEARCH◁◁キーを押します。

(例)フォワード方向(▷)の場合

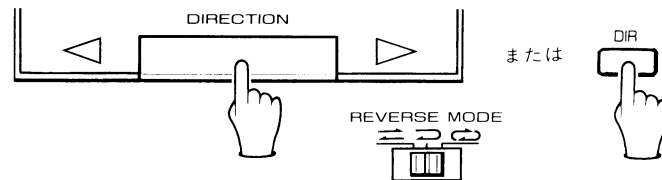


イントロスキャンのしかた

1 イントロスキャンをするテープをセットします。

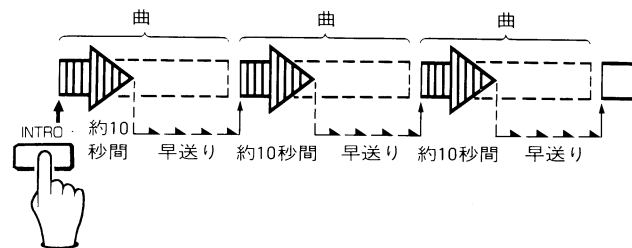
2 以下はテープをセットした方のデッキを操作します。

DIRECTIONキーでテープのイントロスキャン方向を選びます。また、フォワード側からリバース側へ、テープの両面をスキャンする場合は、REVERSE MODEスイッチを◁の位置にセットします。



3 リモコンのINTROキーを押しますと、テープに収録されている曲の頭の部分を約10秒ずつ再生していきます。

(例)フォワード方向のスキャン



4 希望の曲が見つかりましたら、PLAYキーを押します。イントロスキャンは解除され通常の再生になります。



*RELAYキーを押してもDECK 1、DECK 2間をリレーするイントロスキャンをすることはできません。

*イントロスキャンはスキャンが終了すると停止します。REVERSE MODEスイッチを◁の位置にしても繰り返しスキャンはできません。

*曲の頭を再生中にINTROキーを押しますと、ただちに次のスキャンに移ります。

*イントロスキャンは他の操作キー(SEARCH▷▷/◁◁、◁◁/▷▷、PLAY、STOP)を押しますと解除されます。またDIRECTIONキーを押しますと、スキャン方向を変えて継続されます。

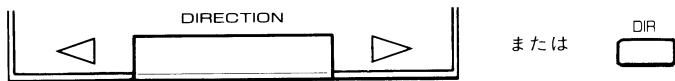
ダイレクト選曲のしかた

現在再生しているところから、前後99曲以内の曲をダイレクト（飛び越し）選曲をすることができます。

1 ダイレクト選曲をするテープをデッキにセットします。

2 以下はテープをセットした方のデッキを操作します。

DIRECTIONキーでテープの走行方向を選びます。



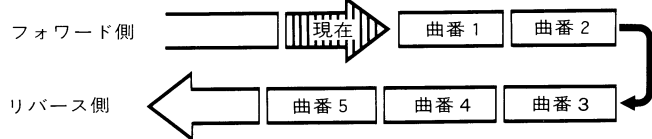
3 リモコンの10キーを使って曲番を指定します。曲番はプログラムディスプレイに表示されます。

●曲番の数え方

* 前を選曲する場合は現在再生中の曲を曲番1と数えます。
 前の曲を選曲する場合 ← 現在の曲 → 先の曲を選曲する場合



* リバース側の曲番は、再生中の面の曲数を加えます。
 この例ではフォワード側の2を加えて、裏面の1曲目は曲番3となります。

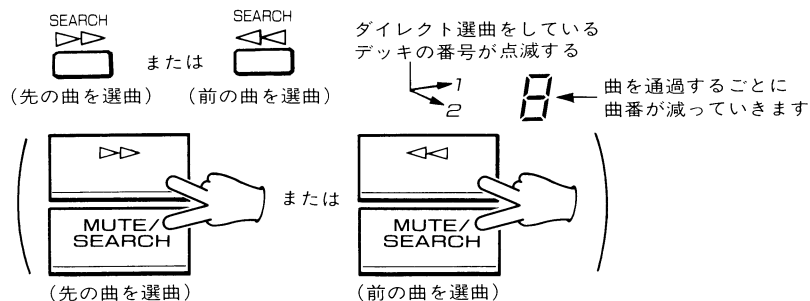


選曲指定中に曲番を変更するには

10キーの“0”を押してから、あらためて希望の曲番を押してください。また希望する曲番が2桁のときは、そのまま希望する曲番を押せば変更できます。

4 フォワード方向（▷）に再生するとき、先の曲を選曲するときはリモコンのSEARCHの▷▷キーを、前の曲を選曲するときは◁◁キーを押します。早送りでサーチがスタートします。サーチ中はデッキの番号が点滅、曲を通り過ぎるごとに、曲番が減っていきます。
 （本体のMUTE SEARCHキーと▷▷キーまたは◁◁キーを同時に押してもサーチがスタートします）

* リバース方向（◁）に再生するときはキー操作が逆となります。



5 サーチが完了すると、プログラムディスプレイの曲番表示、デッキ番号が消え、選曲した曲の頭から再生が自動的にスタートします。

* REVERSE MODEスイッチを▷または◁にセットしますと、テープの両面にまたがってダイレクト選曲をすることができます。

（DIRECTIONキーでテープの走行方向を変えてから選曲した方が早い場合があります）

* REVERSE MODEスイッチが▷のときはリバース側からフォワード側に“前の曲”を選曲することはできませんが、フォワード側からリバース側にわたる“前の曲”を選曲することはできません。

* 10キーを押したあと、約4秒放置しますとダイレクト選曲モードは解除されます。また、STOPキーを押しても解除されます。

* セットしたテープに指定した曲番が無いときはテープエンドでテープ走行はストップし、ダイレクト選曲モードは解除されます。

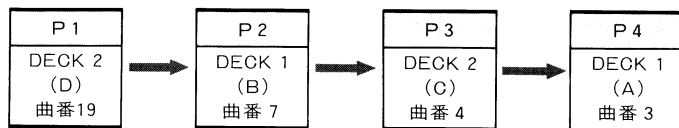
* サーチ中にPLAY、STOP、◁◁、▷▷キーを押しますと、ダイレクト選曲モードは解除されます。

プログラム再生のしかた

DECK 1、DECK 2にセットしたテープに収録されている79曲以内の範囲で、聴きたい曲を15曲まで、聴きたい順番に並び変えて再生することができます。

例) 次のようなプログラムは

DECK 1にセットしたテープの曲番3 (A)、曲番7 (B)、DECK 2にセットしたテープの曲番4 (C)、曲番19(D) を選曲して
(D) (B) (C) (A) の順番でランダムプログラム再生するとき



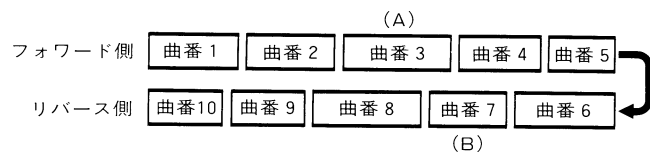
●ランダムプログラム時の曲番の数えかた

プログラム時の曲番は、必ずデッキごとに、フォワード方向の一曲目から曲番1と数えます。

またリバース側の曲番はフォワード側の曲数を加えます。

(この例のプログラムの (B) の曲番は、フォワード側の曲数5を加え7となります。)

*フォワード側に5曲収録されたテープでは



■プログラムのセットのしかた

1 DECK 1またはDECK 2、あるいは両方のデッキにテープをセットします。
●例)の場合は両方のデッキにテープをセットします。

2 プログラムがテープの両面にわたる場合は、REVERSE MODEスイッチを の位置にします。



3 リモコンのPROGキーを押します。プログラムディスプレイは“P1”を表示、プログラムのセットができることを示します。



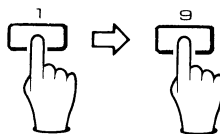
P 1'

4 リモコンの1/2キーを押して、プログラムをセットするデッキを選びます。
●例)の場合はDECK 2です。プログラムディスプレイに“2”を点灯させます。



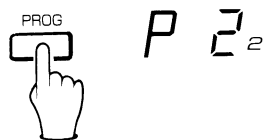
P 1₂ プログラムをセットする
デッキを点灯させます。

5 10キーを使って曲番を指定します。曲番表示が点滅します。
●例)の場合はDECK 2、曲番は19です。

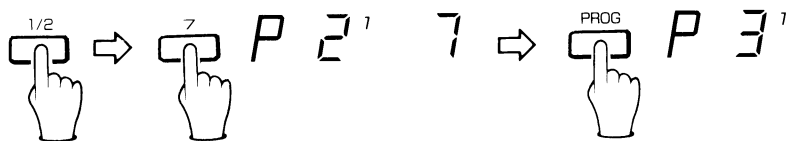


P 1₂ 19

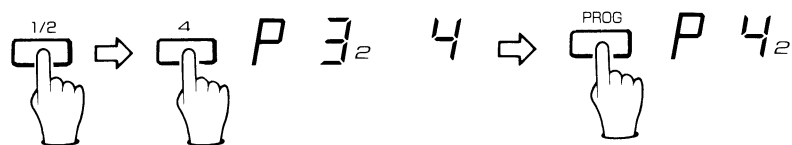
- 6** PROGキーを押します。点滅していた曲番表示は消え、プログラムディスプレイ表示はP2に変わり、P1(プログラム1)にプログラムセットが完了したことを示します。



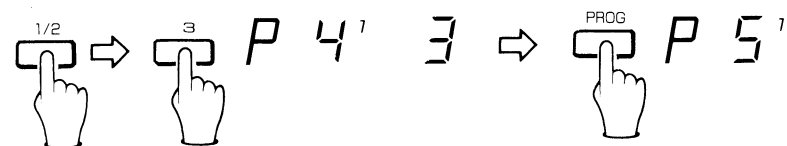
- 7** 1/2キーでデッキを選び、10キーで曲番を指定し、PROGキーを押します。
●例)の場合はDECK 1、曲番は7です。



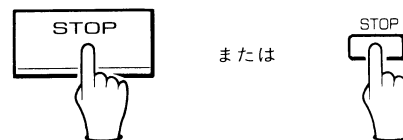
- 8** 1/2キーでデッキを選び、10キーで曲番を指定し、PROGキーを押します。
●例)の場合はDECK 2、曲番は4です。



- 9** 1/2キーでデッキを選び、10キーで曲番を指定し、PROGキーを押します。
●例)の場合はDECK 1、曲番は3です。



- 10** 同様の方法で15曲までプログラムをセットすることができます。すべてのプログラムのセットが完了しましたら、STOPキーを押しテープをストップ状態にします。



- *15曲のプログラムをセットしますと自動的にP1に戻ります。
 - *曲番を指定した後にPROGキーを押さないと、その曲番はプログラムにセットできません。
 - *プログラムのセット状態は約20秒以上放置しますと解除されますがプログラムがセットされている間は“P”が点灯しています。
- また、セット中にPLAY、STOP、REC/PAUSE、INTRO、SEARCH▶▶/◀◀キーなどを押しても解除されます。

- プログラムセット中に曲番を変更するには
曲番が点滅しているときに、変更する曲番が1桁のときは10キーの“0”を押してから、あらためて希望の曲番を押してください。また希望する曲番が2桁のときは、そのまま希望する曲番を押せば変更することができます。

(例)プログラム10の曲番5を曲番6に変更するには



■プログラムの再生

プログラムのセットが完了しましたら、テープ走行中はSTOPキーを押し、ストップ状態にしてから、リモコンのRUNキーを押します。

テープはいったんすべて巻き戻され、プログラムの選曲を開始します。



* DECK 1、DECK 2の両方にまたがったプログラム再生では、自動的にリレー再生になります。

* プログラム再生では、自動的にフォワード方向からの選曲サーチになります。

* いずれか一方のデッキにのみプログラムをし、そのプログラムを再生中は、他方のデッキでは通常の再生あるいは録音をすることができます。

■プログラム再生の終了

すべてのプログラム再生が終了しますと、プログラムディスプレイはENDを表示、自動的に停止状態になります。



* もう一度プログラム再生をするときは、RUNキーを押します。

* プログラム再生を停止するときは、PLAY、STOP、SEARCH << / >>、<< / >>などのキーを押してください。

●プログラム再生中に“Err”が表示されるときは

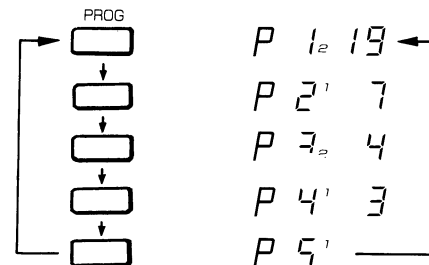
指定した曲番がテープに無い場合などは、“Err”表示が出て再生がストップします。このようなときは、STOPキーを押しストップ状態にしてからPROGキーを押し、プログラム内容をチェックしてください。

■プログラムのチェックと変更のしかた

ストップ状態にしてPROGキーを押しますと、押すごとにプログラムが呼び出されます。

プログラムを呼び出し、あらためて希望の曲番を押してください。前のプログラムは消え、新しいプログラムに変更することができます。

例)PROGキーを押すごとにプログラムが呼び出されます。

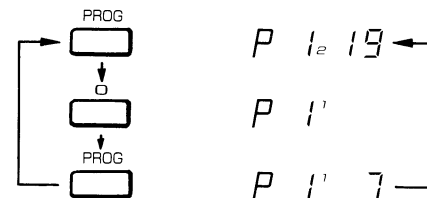


■プログラムの消去のしかた

●プログラムの一部を消去するとき

PROGキーを押して消去したいプログラムを呼び出し、10キーの0を押してから再度PROGキーを押します。プログラムは繰り返りあがります。

例)プログラム1、曲番19をクリアしますと次のようになります。



●プログラムのすべてを消去するとき

ストップ状態にしてPROGキーを押し、次にCLEARキーを押します。すべてのプログラムは消去（クリア）され、表示は“P 1”に戻ります。

* 本機の電源がOFFになりますとプログラムは自動的に消去されます。

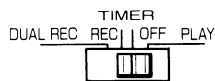


録音のしかた

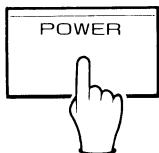
■リモコンで操作する場合は対応するキーをお使いください。

- あなたが本機で録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上の権利者に無断で使用できません。
- 大切な録音をされる場合は、必ずあらかじめ試し録音をして、間違いなく録音されることを確かめてください。

1 TIMERスイッチをOFFの位置にします。

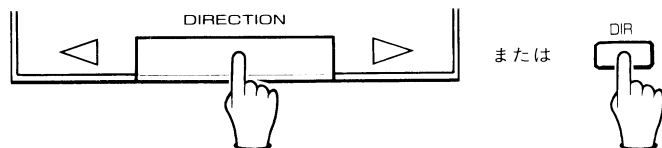





2 POWERスイッチを押して電源を入れます。



3 DECK 1 またはDECK 2 (あるいは両方のデッキに)、録音用テープをセットします。(カセットテープのセットのしかた→ページ11)

4 以下は、録音をする方のデッキを操作します。
DIRECTIONキーでテープの走行方向を選びます。

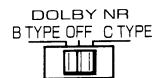


5 REVERSE MODEスイッチでリバースモードを選択します。
テープの片面だけに録音をするときは""に、両面に録音をするときは""の位置にします。
*""の位置にしても、テープ両面に録音が終了しますと、自動的にストップ状態になります。

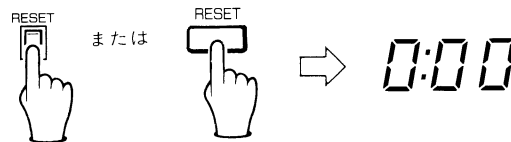


6 ノイズリダクション方式をDOLBY NRスイッチで選択します。

- B TYPE : ドルビーBタイプNRを使って録音をするとき。
- OFF : ドルビーNRを使わずに録音をするとき。
- C TYPE : ドルビーCタイプNRを使って録音をするとき。

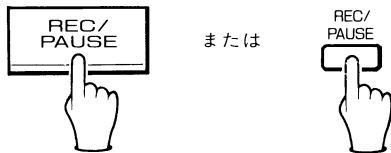


7 必要に応じて、RESETキーを押し、リニアカウンターをリセット(0:00)にします。



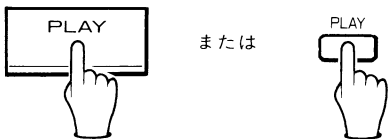
8 接続したアンプにREC OUTセレクターがある場合は、録音するソースを選択します。

- 9** REC/PAUSEキーを押し、録音一時停止状態にします。
* RECインジケータが点灯することを確認してください。

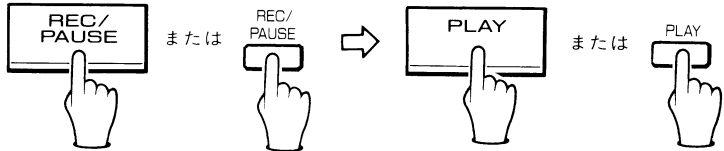


- 10** 録音ソース（レコード、FM放送、CDなど）をスタートさせ、録音レベルを調整します。
録音レベルについての詳細は「録音レベルの調整のしかた」をご参照ください。

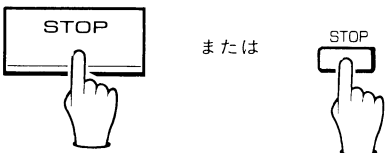
- 11** PLAYキーを押しますと、録音がスタートします。



- 12** 録音を一時停止するときはREC/PAUSEキーを、録音を再開するときはPLAYキーを押します。



- 13** STOPキーを押せば録音は終了します。



■録音レベルの調整のしかた

録音レベルの調整は録音の際の重要なポイントです。レベルが低すぎますとテープのヒスノイズが耳につき、逆に高すぎますと録音された音は歪み、高域の周波数特性も劣化してしまいます。ご使用になるテープの種類に応じて最適な録音レベルに調整してください。

録音レベルの目安

- ノーマルまたはクロームテープをご使用のときは……
信号のピーク時にメーターの振れが+7dB未満になるように調整します。



↑
ピーク時に+7dB未満になるように
REC LEVELを調整します。

- メタルテープをご使用のときは……
信号のピーク時にメーターの振れが+10dB未満になるように調整します。



↑
ピーク時に+10dB未満になるように
REC LEVELを調整します。

■オートレックミュートについて

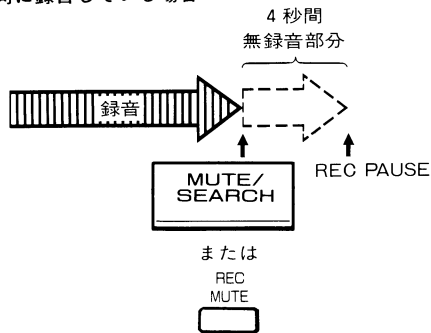
エアチェックなどのときに不要なCMやナレーションをカットしたり、曲間に適当な無録音部分（4秒間）を作るときには、オートレックミュート機能を使うと簡単です。

1 録音中にカットしたい箇所になりましたら、MUTE/SEARCHキー（またはリモコンのREC MUTEキー）を押します。

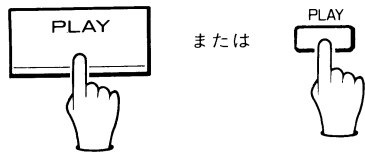
4秒間の無録音部分を作ったあと、自動的に録音一時停止（REC/PAUSE）状態になります。

- 4秒間以上の無録音部分が必要なときには、MUTE/SEARCHキー（またはリモコンのREC MUTEキー）を押し続けます。この場合もキーを離してから4秒間の無録音部分を作ったあと、録音一時停止状態になります。

（例）フォワード方向に録音している場合



2 再び録音を始めたい箇所になりましたらPLAYキーを押します。



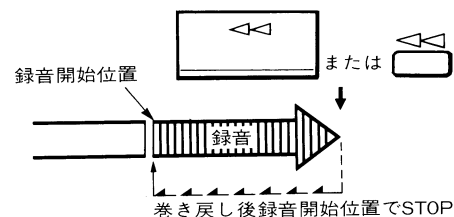
■レックリターンについて

録音終了後、STOPキーを押さずに巻き戻し操作を行いますと（フォワード方向に録音をしているときは<<キーを、リバース方向に録音をしているときは>>キーを押します）、テープは録音を開始した位置まで自動的に巻き戻され停止します。すぐに再生したいときや録音をしなおすときなどに便利です。

* 録音中にRESETキーを押しリニアカウンターをリセット（0:00）にしておきますと、その位置までレックリターンします。

* レックリターンさせるには、4秒間以上の録音継続が必要です。

（例）フォワード方向に録音している場合



■2テープ同時録音のしかた

本機をREC OUTセレクターが2系統あるアンプと接続しますと（接続のしかた→ページ3）、2種類のソースを2本のテープに、あるいは同時に同じソースを2本のテープに録音することができます。（詳細はアンプの取扱説明書を参照ください）

- 1 録音用のテープをDECK 1、DECK 2の両方にセットします。
- 2 「録音のしかた」（ページ23）の4～7に従って録音の準備をします。
- 3 アンプの2系統のREC OUTセレクターでDECK 1、DECK 2それぞれの録音ソースを選択します。
* 同じソースを同時に2本のテープに録音するときは、REC OUTセレクターを同一のソースに合わせます。
- 4 「録音のしかた」の9～13に従って録音をします。

■同時録音・再生のしかた

本機をREC OUTセレクターのあるアンプと接続しますと、同時に片方のデッキで録音、他方のデッキで再生するという使いかたをすることができます。

- 1 録音用のテープおよび再生するテープをDECK 1、DECK 2にセットします。
- 2 録音用のテープをセットしたデッキを「録音のしかた」(ページ23)の4～7に従って録音の準備をします。
- 3 アンプのREC OUTセレクターで録音ソースを選択します。
- 4 再生用のテープをセットしたデッキを「再生のしかた」(ページ13)の4～6に従って再生の準備をします。
- 5 アンプのインプットセレクターを、再生するデッキに合わせます。
- 6 録音用のテープをセットしてデッキを「録音のしかた」の9～13に従って操作し、録音を始めます。また再生用のテープをセットしたデッキのPLAYキーを押して再生を始めます。

リレー録音のしかた

DECK 1、DECK 2それぞれにテープをセットしますと、最長3時間の連続録音(2本ともC90テープを使用した場合)ができます。

リレー録音を開始する前に接続を確認してください。DECK 1、DECK 2双方のLINE IN REC端子がアンプのREC OUT端子と各々接続されていませんと、リレー録音はできません。

- REC OUTセレクターが2系統あるアンプに接続している場合は、双方のREC OUTセレクターを同一のソースに合わせてください。

- 1 DECK 1、DECK 2ともに「録音のしかた」(→ページ23)の1～10の項目に従って、録音の準備をします。

テープリレーについては「リバースモードとテープリレーについて」(→ページ16)を参照ください。

- 2 RELAYスイッチを押します。




- 3 DECK 1のPLAYキーを押します。

リレー録音がスタートします。

(DECK 2のREC/PAUSEキーを押す必要はありません)



ご注意

- リレー録音では繰り返し録音はしません。DECK 1、DECK 2のREVERSE MODEスイッチをの位置にセットしてもテープの両面が完了しますと、自動的にストップ状態になります。
- 本機のLINE IN REC端子を2系統ともアンプのREC OUT端子に接続されていませんと、リレー録音をすることはできません。

ダビングのしかた

■リモコンで操作する場合は対応するキーをお使いください。

本機はDECK 2 (再生) からDECK 1 (録音) へダビング(テープコピー)をすることができます。また、倍速モードにしますと、通常の半分の時間でダビングを行うことができます。加えてAUTOダビング、MANUALダビング、SKIPダビング、PROG (プログラム)ダビングなど、豊富なダビング機能を搭載しています。

- **AUTOダビング**………オリジナルテープと同じテープをつくる時に便利です。
- **MANUALダビング**………オリジナルテープを編集しながらテープをつくる時に便利です。
- **SKIPダビング**………オリジナルテープと異なる長さのテープをダビングに使用する場合に有効です。
- **PROGダビング**………オリジナルテープの希望の曲を選んで、順番を入れ替えてダビングすることができます。

*オリジナルテープとは録音済みテープのことです。

(注) ダビングする時には、自動的にDECK 2は再生状態になりDECK 1は録音状態になります。DECK 1に録音済みのテープをセットしダビングしますと録音が消えてしまいますのでご注意ください。

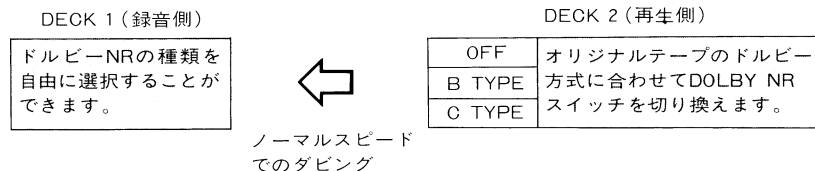
ダビング時の動作について

- 倍速ダビング中のモニター音は倍速の再生音になります。
- DECK 1 (録音側) のREC LEVELは調整する必要はありません。自動的にDECK 2にセットされたテープに録音されたレベルでダビングされます。
- ダビングが終了しますとDECK 1、DECK 2ともストップ状態になります。
- DECK 2 (再生側のテープ) が先に終わりますと、DECK 2はストップし、DECK 1は4秒間の無録音部分を作ってストップします。DECK 2をSTOPキーを押してストップさせたときも同様です。
- DECK 1 (録音側のテープ) が先に終わりますと、DECK 1、DECK 2ともストップ状態になります。DECK 1をSTOPキーを押してストップさせたときも同様です。
 - *オートダビング時は、片方のテープが先に終わっても、他方のテープはテープエンドまでテープ走行を続けます。
- ダビング中は1◁2が点滅します。
 - *ダビングはDECK 2→DECK 1のみ可能です。DECK 1→DECK 2へのダビングはできません。

■クロスドルビーNR機能について

ノーマルスピードでダビングするときには録音するテープのノイズリダクションをオリジナルテープに関係なく自由に選ぶことができます。

例えば、ドルビーB TYPE NRを使って録音されたテープを、ドルビーC TYPE NRやNR OFFでダビングすることができます。



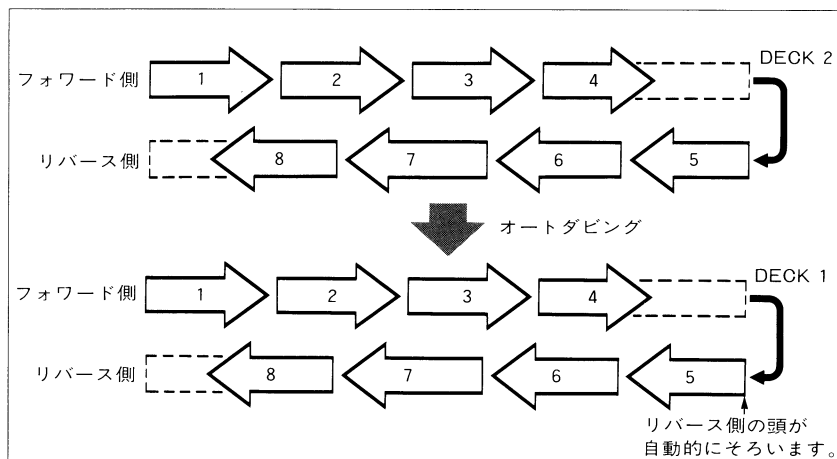
*クロスドルビーNR機能を使ってダビングをするときは、ダビングスピードをNORMにしてください。倍速ダビングの場合は、DOLBY NRスイッチの位置に関係なく自動的にDECK 2のテープのNR方式でダビングされます。倍速ダビング時はディスプレイの◻◻B、◻◻Cは表示されません。

AUTOダビングのしかた

オリジナルテープと同じテープを作るときに便利な機能です。

ダビング中は、テープが先にリバース位置にきたデッキが待機状態になりますので、リバース面の頭を自動的にそろえてダビングすることができます。

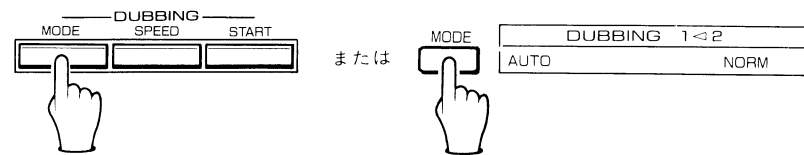
*AUTOダビングをするときは、録音するテープはオリジナルテープと同じ長さのものをお使いください。



1 DECK 1 に録音用テープを、DECK 2 にオリジナルテープをセットします。

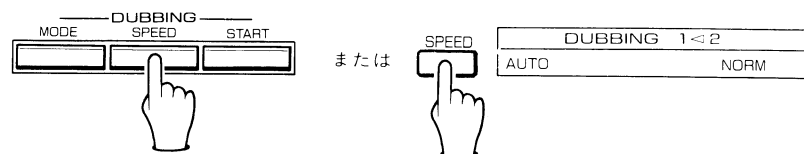
2 DUBBING MODE キーを押し、ディスプレイにAUTOを表示させ、オートダビングモードにします。

MODE キーは押すごとに AUTO→MANUAL→SKIP→PROG→の順に切り換わります。

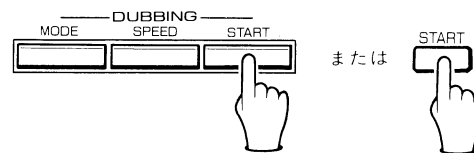


3 DUBBING SPEED キーを押し、ダビング速度を選択します。SPEED キーは押すごとに NORMAL↔HIGH に切り換わります。NORM……標準の速度でダビングします。HIGH……標準の2倍の速度でダビングします。

*クロスドルビーNR機能を使うときは速度をNORMにします。



4 DUBBING START キーを押します。両方のテープはいったんすべて巻き戻され、リーダーテープ部を送ったあとフォワード方向でAUTOダビングがスタートします。



5 オリジナルテープの両面のダビングが完了しますと DECK 1、DECK 2 ともストップ状態になります。

*AUTOダビングでは、REVERSE MODE スイッチの位置に関係なくフォワード側からスタートし、自動的にリバース側のダビングに移ります。

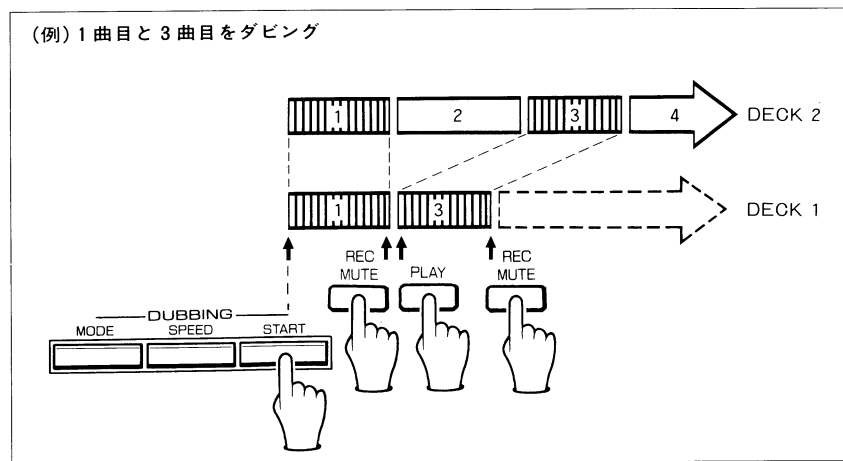
*AUTOダビングを解除するときはSTOP キーを押します。

マニュアルダビングのしかた

オリジナルテープを編集しながらダビングするときに便利な機能です。

DECK 2の再生音をモニターしながら、ダビングしたい曲をDECK 1のREC PAUSEキー、REC MUTE、PLAYキーなどを使ってダビングします。(DECK 1での録音操作は「録音のしかた」→ページ23を参照してください)

(例) 1曲目と3曲目をダビング

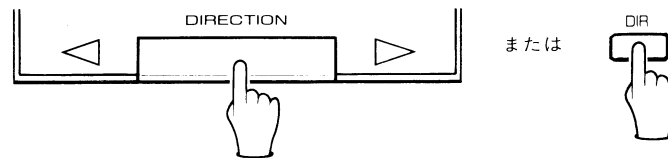


1 DECK 1に録音用テープ、DECK 2にオリジナルテープをセットします。

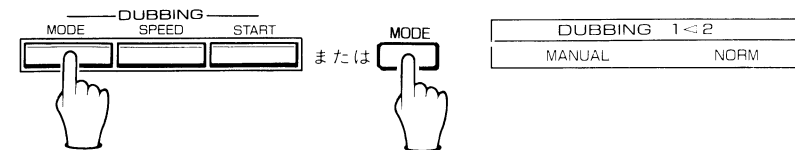
2 DECK 1、DECK 2ともにREVERSE MODEスイッチでリバースモードを選びます。



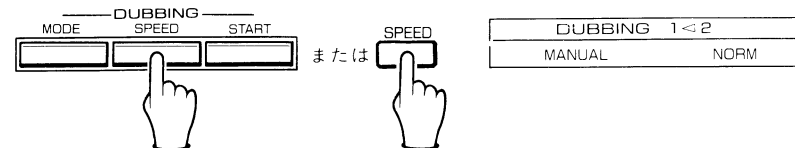
3 DECK 1、DECK 2ともにDIRECTIONキーでテープの走行方向を選びます。



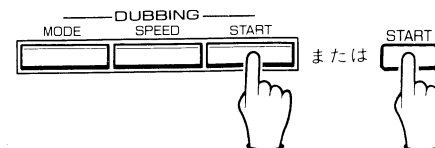
4 DUBBING MODEキーを押し、MANUALをディスプレイに表示させ、マニュアルダビングモードにします。



5 DUBBING SPEEDキーを押し、ダビングスピードを選びます。クロスドルビ－NR機能を使うときは、スピードをNORMにします。



6 DUBBING STARTキーを押します。

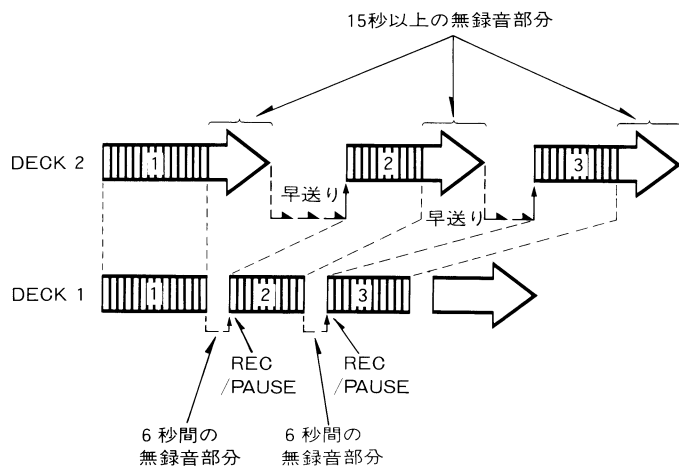


- 希望の曲のダビングが完了しましたら、DECK 1のREC MUTE (REC PAUSE) キーを押します。(マニュアルダビングモードは継続します)
- 再生音をモニターしながら、ダビングしたい曲になりましたらDECK 1のPLAYキーを押せば、再びダビングが開始されます。

* マニュアルダビングを解除するときはSTOPキーを押します。

SKIPダビングのしかた

オリジナルテープと録音用テープの長さが異なっているときに便利な機能です。スキップダビング時はDECK 2 (再生側テープ) に無録音部分が15秒以上続いた場合は、次の曲の頭まで自動的に早送りされ、同時にDECK 1は約6秒間の無録音部分を作る位置まで巻き戻され、録音一時停止状態となります。そしてDECK 2の再生が再開されると、DECK 1も自動的に録音を再開します。

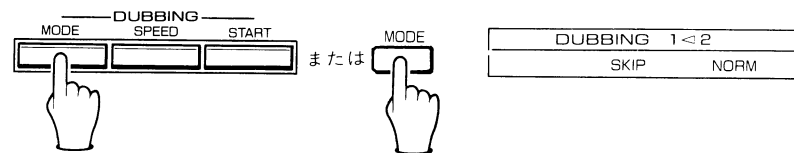


DECK 1はDECK 2が早送りされると同時に、録音の済んだ曲の最後から約6秒間のところまで巻き戻してREC PAUSE。

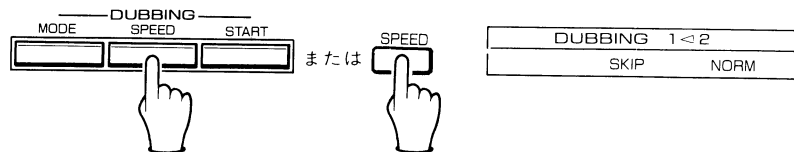
DECK 2が次の曲の再生を開始すると同時にDECK 1も録音がスタートします。

1 マニュアルダビングの1～3の操作をします。

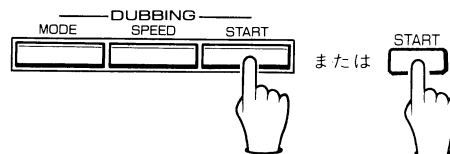
2 DUBBING MODEキーを押し、ディスプレイにSKIPを表示させ、スキップダビングモードにします。



3 DUBBING SPEEDキーを押し、ダビングスピードを選びます。クロスドルビーNR機能を使うときは、スピードをNORMにします。



4 DUBBING STARTキーを押します。

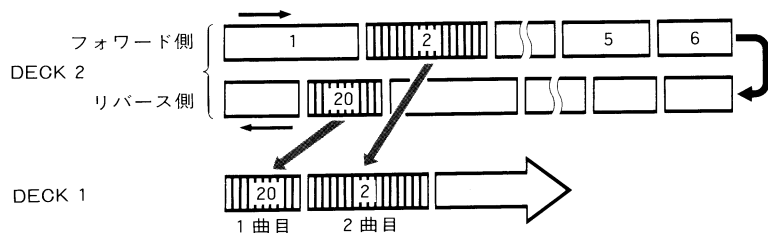


* スキップダビングを解除するときはSTOPキーを押します。

プログラムダビングのしかた

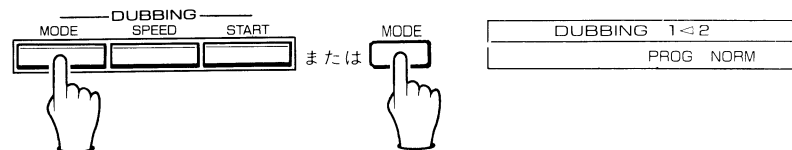
DECK 2にセットしたオリジナルテープの聴きたい曲を選び、聴きたい順番でDECK 1にダビングすることができます。

(例)DECK 2の曲番2、曲番20をDECK 1へダビング

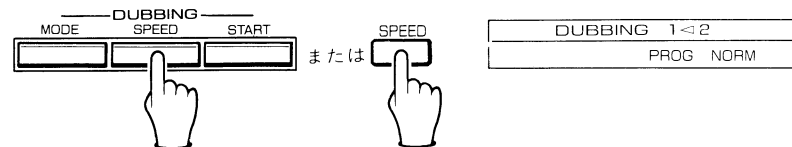


- 1 DECK 1に録音用テープ、DECK 2にオリジナルテープをセットします。
- 2 DECK 2にセットしたテープのプログラム選曲をします。(プログラムは必ずDECK 2のテープだけから選曲してください)
・ランダムプログラム再生のしかた→ページ20の操作をします。

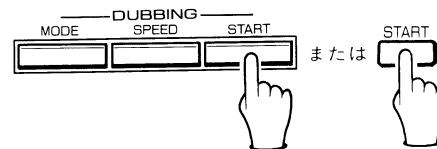
- 3 DUBBING MODEキーを押し、ディスプレイにPROGを表示させ、プログラムダビングモードにします。



- 4 DUBBING SPEEDキーを押し、ダビングスピードを選びます。クロスドルビ- NR機能を使うときは、スピードをNORMにします。



- 5 DUBBING STARTキーを押します。
*リモコンのRUNキーを押しますと、通常のランダムプログラム再生となり、プログラムダビングは解除されます。



- 6 DECK 2のプログラム再生が終了しますと、ディスプレイはENDを表示、DECK 1、DECK 2ともストップ状態になります。
*プログラムダビングを解除するときはSTOPキーを押します。

END

ドルビーNR、ドルビーHXプロについて

■ドルビーNRについて

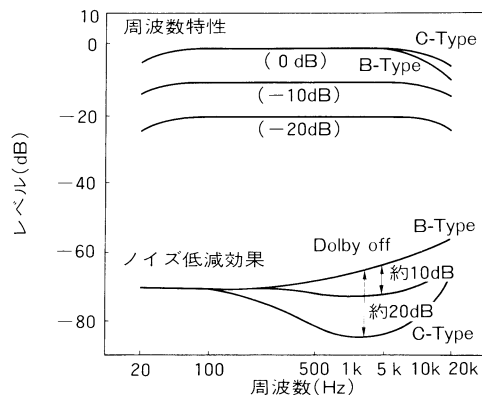
カセットテープの場合、聴感上、高域でのテープのヒスノイズが主な雑音源になります。このヒスノイズを減らすため、本機では、従来のドルビーBタイプNRに加え、ドルビーCタイプNRを採用し、ドルビーBタイプNRとドルビーCタイプNRを切り換えて使用することができます。

ドルビーBタイプNRでは、高域周波数において約10dBの改善効果がありますが、ドルビーCタイプNRでは、人間の耳が最も敏感な帯域(2kHz~8kHz)で約20dBの改善効果が得られ、さらに、10kHz以上の帯域では、テープの高域MOL(最大録音レベル)特性を改善することができます。

下図は、ドルビーBタイプNRとドルビーCタイプNRで録音・再生したときの周波数特性とノイズ低減効果を表わしたものです。

ドルビーCタイプNRの場合、ドルビーBタイプNRに比べノイズはさらに低減され、約20dBの改善効果があることがわかります。

なお、ドルビーNRシステムは、録音・再生両過程を通じてノイズを低減しますので再生時にはDOLBY NRスイッチは必ず録音時と同じ状態にしてください。



- ノイズリダクション及びHXプロヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HXプロはバングアンドオルフセンの考案です。
- 「ドルビー」、ダブルD記号及び「HXプロ」はドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの登録商標です。

■HXプロヘッドルームエクステンション

(ダイナミックバイアサーボ)システムについて

歪率を改善するために、録音の際録音ヘッドには音楽信号と共にテープに合わせたバイアス電流が流されています。このバイアス電流は、必要以上に多くなると音楽信号の高域周波数成分を劣化(ハイ落ち)させる働きをします。(Fig 1)

HXプロヘッドルームエクステンションシステムは、ブロック図(Fig 2)のように録音ヘッドとバイアスオシレーターとの間にDC制御のバイアサーボアンプを設け(L、R独立)、録音する入力信号の周波数成分とそのレベルに応じたバイアス量を自動的にコントロールするシステムです。このため、あらゆる条件下でオーディオスペクトラム間の全ての周波数を最適録音でき、音楽信号の中の高域周波数成分の劣化も改善され、0 dBのハイレベル録音時でもロックやフュージョンなどの強烈な倍音成分を余裕をもって録音することができます。(Fig 3)

HXプロヘッドルームエクステンションシステムは、ノイズリダクションではなく、録音時にのみに自動的に働くシステムであるため、再生時にはどのようなテープデッキでも本機で録音したテープをダイナミックなサウンドで楽しむことができます。

Fig 1 バイアスカーブ

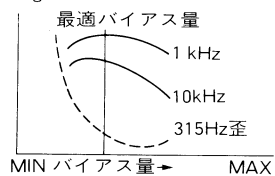


Fig 3 HXプロ ON時の周波数特性

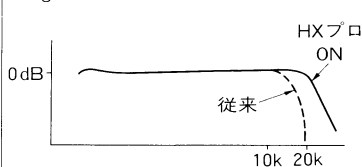
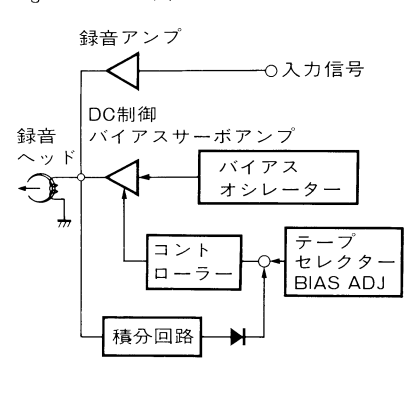


Fig 2 ブロック図



タイマー再生 / 録音のしかた

■リモコンで操作する場合は対応するキーをお使いください。

別売のオーディオタイマーをご使用になりますと、外出中でもエアチェックをすることができます。(タイマー録音) またお好みの音楽を起床時間にセットしておきますと、さわやかなお目覚めとなります。(タイマー再生)

■タイマー再生のしかた

- 1 各機器の電源プラグを接続します。
 - ・本機の電源プラグをアンプのACアウトレットに接続します。
 - ・アンプの電源プラグをタイマーの連動コンセントに接続します。
- 2 アンプを操作します。
 - ・アンプを“TAPE”にセットし、音量を調整します。
- 3 本機を操作します。
 - ・「再生のしかた」の**1～6**の操作または「リレー再生のしかた」の**1～6**の操作をします。(→ページ13、15)
 - ・TIMERスイッチを“PLAY”の位置にします。
 - ・タイマー再生ではテープは電源がOFFになる前に走行していた方向で行われます。従って走行方向を切り変える場合は、一度プレイさせて希望の走行方向を設定してください。
 - ・リレー再生をする場合はDECK 1、DECK 2両方のデッキに録音済みテープをセットし、RELAYスイッチを押します。DECK 1からリレー再生がスタートします。
- 4 タイマーの操作をします。
 - ・再生の開始時間、終了時間などをセットします。(詳しくはタイマーの取扱説明書をご参照ください)
 - ・このとき、各機器の電源が切れたことを確認してください。

●以上でタイマーにセットした時間になりますと、自動的に再生が始まります。

■タイマー録音のしかた

- 1 各機器の電源プラグを接続します。
 - ・チューナーおよび本機の電源プラグをアンプのACアウトレットに接続します。
 - ・アンプの電源プラグをタイマーの連動コンセントに接続します。
- 2 アンプ、チューナーを操作します。
 - ・アンプの録音ソースを“TUNER”にセットし、録音したい放送局を選局します。
- 3 本機を操作します。
 - ・「録音のしかた」の**1～10**の操作または「リレー録音のしかた」の**1～2**の操作をします。(→ページ23、26)
 - ・TIMERスイッチを“REC”の位置にします。
 - ・タイマー録音ではテープは電源がOFFになる前に走行していた方向で行われます。従って走行方向を切り換える場合は、一度プレイさせて希望の走行方向を設定してください。
 - ・リレー録音をする場合はDECK 1、DECK 2両方のデッキにテープをセットし、RELAYスイッチを押します。DECK 1からリレー録音がスタートします。
 - ・TIMERスイッチを“DUAL REC”の位置にしますと、同じソース、あるいは別々のソース(REC OUTセレクターが2系統あるアンプに接続している場合)を2本のテープに録音することができます。
- 4 タイマーの操作をします。
 - ・録音の開始時間、終了時間などをセットします。(詳しくはタイマーの取扱説明書をご参照ください)
 - ・このとき、各機器の電源が切れたことを確認してください。

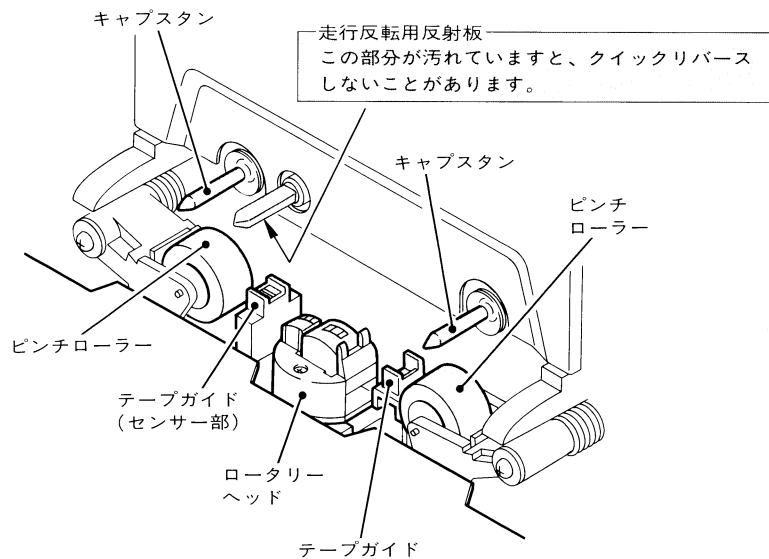
●以上でタイマーにセットした時間になりますと、自動的に録音が始まります。

タイマー再生または録音が終了しましたら、本機のPOWERスイッチをONにする前に、必ずTIMERスイッチを“OFF”の位置に戻してください。“PLAY”や“REC”の位置のまま電源を入れますと、不要な再生または録音をしてしまうことがあります。

メンテナンス

デッキを長時間ご使用になっていますと、キャプスタン、ピンチローラー及びヘッドの汚れや帯磁が原因で、音がかすれたり、ノイズが入ったり、音がふるえたりしてきます。市販の綿棒、クリーニング液やクリーニングテープ、ヘッドイレーサーをご使用になり、定期的にクリーニングや消磁をしてください。

クリーニングはおよそ10時間ごとに、消磁は20～30時間を目安に行なってください。また特に大切な録音をするときや、古いテープを使った後もクリーニングしておきましょう。



イラストの 部をきれいにしておくことが大切です。

著作権について

あなたが、本機で録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■日本音楽著作権協会

北海道支部 TEL. 011(221)5088
〒060 札幌市中央区南一条西2-7
長銀ビル

東京支部 TEL. 03(562)4455
〒104 東京都中央区銀座1丁目15-6
共同ビル銀座1丁目3F

東北支部 TEL. 022(264)2266
〒980 仙台市中央2-1-7
仙台三和ビル

北陸支部 TEL. 0762(21)3602
〒920 金沢市香林坊2-3-25
金沢日産生命ビル

九州支部 TEL. 092(441)2265
〒812 福岡市博多区博多駅前2-1-1
福岡朝日ビル

中国支部 TEL. 082(249)6362
〒730 広島市中区大手町1-2-1
広島東京海上ビル2F

四国支部 TEL. 0878(21)9191
〒760 高松市寿町2丁目2番10号
住友生命高松寿町ビル3F

静岡支部 TEL. 0542(54)2621
〒420 静岡市追手町9-22
読売静岡ビル

中部支部 TEL. 052(586)1155
〒450 名古屋市中村区名駅4-27-20
新名古屋ビル南館

関西支部 TEL. 06(244)0351
〒542 大阪市南区南船場4-3-11
豊田ビル

カセットテープについて

カセットテープには多種多様の製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通で使用できます。

●カセットテープの録音時間による分類

カセットテープの型名は、両面往復時間を“分”単位で表示してあります。

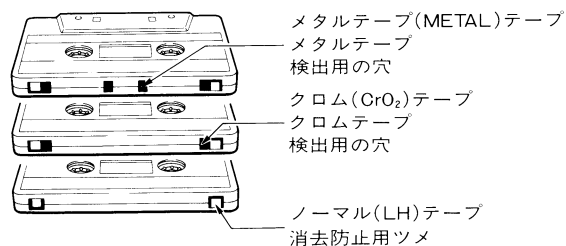
種類	録音再生時間		テープの長さ(m)
	片道(分)	往復(分)	
C-46(L)	23	46	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135

※C-120テープは、テープが薄いため音質面でも音楽録音には適当ではありません。できるだけ上記のテープをご使用ください。

●カセットテープの材質による種類とカセットハーフの構造

カセットテープは磁性材質によって特性が異なります。

そこで、そのテープに合ったバイアス値とイコライザー特性を選択する必要があります。本機はオートテープセクター機能を内蔵していますので、カセットテープを装着するだけでそのテープに最適なバイアス電流とイコライザー特性、テープ感度が自動的に切り換わり、それぞれのテープの性能を発揮させることができます。テープの種類を検出には図のような検出用の穴を利用しています。



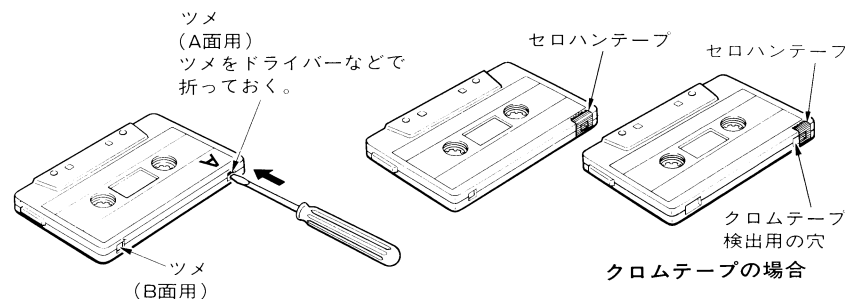
※カセットハーフに検出用の穴がない(旧タイプのメタルテープなど)テープではオートテープセクターが働きません。

※旧タイプのメタルテープ(検出穴のないもの)を使用しますと、CrO₂ポジションで録音・再生されます。テープによっては消去されない(前の音が消え残る)場合や音が歪む場合があります。

●録音内容の保存

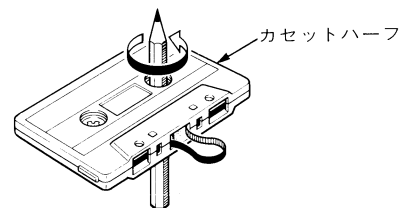
カセットハーフには、大切な録音をあやまって消さないように消去防止用の穴があります。録音後、この穴のツメをドライバーなどで取り去ると重ねて録音できます。録音内容をいつまでも保存することができます。

また、ツメを折ったテープに再び録音したい場合には、セロハンテープなどで穴をふさいでください。その際は検出用の穴をふさがないようにご注意ください。



●テープのたるみを直す

テープがたるんだりとび出したままご使用になりますと、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみついたりする原因となります。こんな場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差込んで巻き取り、テープのたるみを直してからご使用ください。




●カセットテープの保管は

カセットケースに入れ、直射日光(高温)、湿気および磁気のあるところ(テレビやスピーカーの近く)を避けて保管してください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消してしまうことがあります。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
録音、再生時にテープが回らない。	・テープがたるみ、ピンチローラーにまきついている。	・テープを使用する前にテープのたるみを鉛筆などでとる。
録音できない。	・カセットテープ後部のツメが折られている。 ・ヘッドが汚れている。	・カセットテープを交換するか、穴の部分をセロハンテープなどでカバーしてください。 ・ヘッドを清掃する。
音がかすれる。 音飛びがする。	・ヘッドが汚れている。 ・ヘッドが帯磁している。 ・テープ走行面が汚れている。	・クリーニングテープでヘッドを清掃してください。 ・ヘッドイレーサーでヘッドの消磁をしてください。 ・新品テープと交換してください。
再生の音がひずむ。	・録音レベルが高すぎる。 ・テープがいたんでいる。(片伸びなど変形)	・録音レベルを確認してください。 ・新品テープと交換してください。
再生音の音質が悪い。	・ドルビーNRスイッチのセットが違っている。	・録音したときと同じタイプのドルビーNRを選んでください。
左右のバランスが悪い。	・ヘッドが汚れている。	・ヘッドを清掃する。
雑音が多い。	・ヘッドが汚れている。 ・ヘッドが帯磁している。 ・古いテープを使用している。	・クリーニングテープで清掃してください。 ・ヘッドイレーサーでヘッドの消磁をしてください。 ・良質なテープと交換してください。
録音または再生の途中でストップまたは反転してしまう。	・テープがたるんでいたり、飛び出していた。 ・テープに折れ、キズがある。 ・本機フロントパネルに直射日光などの強い光があたっている。 ・テープにキズ、ゴミがあってクイックリバースが誤動作している。 ・エンドレステープを使用している。	・鉛筆などでカセットハーフのリール軸をまわして、テープを張り直してください。 ・強い光をあてないようにしてください。 ・REVERSE MODEスイッチを  ポジションにしてください。 ・エンドレステープはリールが正しく回転しません。使用しないでください。
選曲再生ができない。	・無録音部分が短い。 ・曲の途中で無録音レベルが非常に低い部分がある。 ・エアチェックなどで会話が録音されている。	・選曲再生機能は、無録音部分が4秒以上ないと働きません。
クイックリバースがはたらかない。	・テープの残量が少ない。 ・反転用反射板がよごれている。	・クイックリバース機能は、リーダーテープまでの磁性体部分が、約15秒以上ないとはたらきません。 ・反射板をクリーニングしてください。
テープの残量時間の表示に誤差が大きい。	・テープ長が本機にインプットされていない。	・テープ長をインプットしてください。(ページ11)
リモコンを使うと操作できない。	・乾電池が消耗している。	・リモコンの乾電池を2本とも取り替えてください。

参考仕様

■形式	4トラック2チャンネルオートリバース録音・再生 ツインカセットデッキ
■メカニズム部	
ワウ・フラッター	±0.08%以下(W. PEAK, EIAJ) 0.05%以下(W. RMS, EIAJ)
早送り・早戻し時間	約85秒(C-60テープ使用時)
モーター	DCサーボモーター(キャプスタン)×2 DCモーター(リール)×2
メカニズム	2モーターベルトドライブ
■ヘッド部	
録音・再生ヘッド	アモルファス×2
消去ヘッド	ダブルギャップフェライト×2
■アンプ部	
録音方式	交流バイアス(210kHz)
消去方式	交流消去方式(105kHz)
録音・再生周波数特性	20~17,000Hz±3dB(ノーマル、-20dB) 20~19,000Hz±3dB(クロム、-20dB) 20~20,000Hz±3dB(メタル、-20dB)
入力レベル/インピーダンス	LINE IN: 50mV/50kΩ
出力レベル/インピーダンス	LINE OUT: 360mV/1kΩ PHONES: 0.3mW/8Ω

総合SN比(EIAJ)	56dB以上(ドルビーNR OFF) 64dB以上(ドルビーBタイプNR) 72dB以上(ドルビーCタイプNR)
総合歪率	1.0%以下(315Hz, 3rd)
チャンネルセパレーション	40dB以上
クロストーク	55dB以上(125Hz, EIAJ)

■総合	
定格電源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	26W
外形寸法(W×H×D)	435×140.5×305mm
重量	7.0kg
付属品	ピンプラグコード×4 リモコン送信機 RS-KW9 単3乾電池×2

*仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

●本機はRS対応となっておりますが、RSリモコン(AVC等の付属リモコン)ではDECK1のみ動作します。

ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

（右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。）

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

（ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口）

北海道	〒064 札幌市中央区南十条西1 1 50 ヤマハセンター内 Tel(011)513-5036
仙台	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F Tel(022)236-0249
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル Tel(03)3255-2241
首都圏	〒211 川崎市中原区木月1184 Tel(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F Tel(025)243-4321
松本	〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F Tel(0263)32-5930
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内 Tel(053)465-1158
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F Tel(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 Tel(06)877-5262
神戸	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ神戸店内 Tel(078)321-1195
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内 Tel(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 Tel(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 Tel(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

（ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口）

東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 首都圏第一営業所 Tel(03)3255-5691 神田営業所 Tel(03)3255-6767
名古屋	〒464 名古屋市中千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 中部営業所 Tel(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 関西営業所 Tel(06)647 6411 中央営業所 Tel(06)647 6411
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 AV機器事業部 お客様ご相談センター Tel(053)460-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

Tel(053)460-3451

品質保証室

Tel(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

YAMAHA